

CA Gen

リリース ノート

リリース 8.5



第 5 版

このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、
(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2015 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このマニュアルが参照している CA Technologies の製品は以下のとおりです。

- Advantage™ Gen
- AllFusion® Gen
- CA Gen
- CA Common Services for z/OS
- CA Chorus Software Manager™ (CA CSM)
- COOL:Gen
- Unicenter® Software Delivery

マニュアルの変更点

以下のマニュアルの更新は、本書の前回のリリース以降に行われたものです。

- **Incremental Release** 固有の情報を反映するようにセクションを更新しました。
- 「[z/OS の CA Gen サポートと認定ポリシー](#) (P. 53)」を追加しました
- [既知の問題](#) (P. 91) - ツールセット、ランタイム アプリケーション、およびビルドツールでの既知の問題に関する説明を追加しました。ランタイム GUI、ランタイム Web 生成、プロキシ生成、および UNIX インストーラで修正された問題を削除しました。
- [クライアント サーバエンサイクロペディア サーバ](#) (P. 19) および [ホスト エンサイクロペディア](#) (P. 25) で構成インスタンス情報を更新しました。

CA への連絡先

テクニカルサポートの詳細については、弊社テクニカルサポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: はじめに	11
第 2 章: CA Gen Interim Enhancement 1 のリリースまでの CA Gen 8.5 の変更	13
.Net クライアントと WebSphere MQ	13
.NET 生成アプリケーション	13
再生成	13
DBMS 接続情報	14
.NET プロキシ	14
製品マニュアルへのアクセス	14
BLOB	15
ビルド ツール	16
Java ランタイムの提供廃止	16
CA Gen チュートリアル	17
CA Gen Studio	17
Client Server Encyclopedia	18
クライアント サーバ エンサイクロペディア サーバ	19
CSE クライアント	21
CICS ソケット リスナ	22
カスタム・プロキシ	22
DB2 テーブル区分	23
CA Gen z/OS 製品のダウンロード	23
環境変数の変更	24
ホスト エンサイクロペディア	25
GUI ランタイム	25
ヘルプのヘルプ	25
Java 生成アプリケーション	25
再生成	25
Java プロキシ	26
Gen Studio	26
共通ワークスペース ロケーション	26
Gen Studio 生成	26
プラグインのレジストリの場所	27
32 KB の CFB 制限の削除	28

サーバランタイム	29
AIX 用の IEFPLATFORM 変数	29
64 ビット CA Gen サーバのサポート	30
64 ビット Windows サポート	30
64 ビットの AIX、Solaris および Linux のサポート	31
Linux 上の Tuxedo のサポート	31
64 ビットサポートに匹敵する 32 ビットサポート	31
システム要件	31
ツールセット	32
データ・モデル	32
Model Preferences (モデル設定)	33
モデルのロック解除	33
DDL 生成時におけるコメントでの単語分割	33
ツールセットの操作性に優れた拡張機能	34
Web サービス トランザクション イネーブラ	35
Web サービス ミドルウェア	36
Web View	37
Web View の拡張機能	37
ドット表記	38
ライブラリ更新	38
緩和された CSS 制限	38
Web コンテンツ圧縮	39
z/OS 拡張機能	39
CA CSM を使用したホスト エンサイクロペディア構成	39
Enterprise COBOL 5	39
GLOBDATA	39
新規のメッセージ	40
z/OS ランタイム DLL	40

第 3 章: CA Gen Interim Enhancement 1 41

Web Service Consumption	41
インライン・コード・ステートメント	42
Visual Studio 2012 サポート	42
Windows 用 GENENV.BAT	43
Oracle 12 c のサポート	43

第 4 章: CA Gen Incremental Release 2 45

Web サービス使用 - JAVA のサポート	45
-------------------------------	----

アクション図のユーザー追加関数	46
より大きなモデル ダウンロードをサポートするための CA Gen ツールセット モデルで許可されて いる文字列プロパティの数の増加	47
第 5 章: CA Gen Incremental Release 3	49
Web サービスの作成と CA API Gateway への公開	49
Web サービス使用 - C# のサポート	49
検索ダイアログ ボックスがモードレスに	50
二重引用符をリテラルで使用できない	50
第 6 章: CA Gen Incremental Release 4	51
SQL/MP および SQL/MX データベースのサポート	51
第 7 章: z/OS の CA Gen サポートと認定ポリシー	53
第 8 章: 削除された機能	55
第 9 章: 廃止された機能	57
第 10 章: Installation Considerations (インストールに関する考慮事項)	59
Windows インストール	59
アップグレード	59
サポートされないオペレーティング システム	60
旧バージョンのアンインストール	60
再起動	61
アンチウイルス ヒューリスティックス	61
UNIX インストール	62
アップグレード	62
Linux に対するマウント命令	63
Solaris に対するマウント命令	63
AIX に対するマウント命令	64
HP Itanium に対するマウント命令	65
旧バージョンのアンインストール	66
インストール モード	66
z/OS インストール	67
アップグレード	67

SMP/E の使用	67
CA CSM を使用したホスト エンサイクロペディア構成	68
ホスト エンサイクロペディアの上書き式のアップグレード	68
ユーザ EXIT	69

第 11 章: 一般的な注意事項 71

はじめに	71
アクセシビリティ	72
ASP.NET	72
エクスポート ビュー	72
スクリプト インジェクション検査	72
サードパーティ製の Web コントロールの特性	73
非同期サポート	73
CSE の構成	74
各国語サポート	74
各国語および全角文字についての考慮事項	74
カスタム・プロキシ	75
日付、時刻およびタイムスタンプのリテラル値へのマッピング	76
リテラル値にマップされたインポート ビュー属性の公開	76
ランタイム	76
Visual Studio 2012	77
64 ビットの C ブロック モードおよびサーバのサポート	77
64 ビット Windows ユーザ エグジットの再構築	78
セキュリティ トークン ユーザ エグジット -- maxLength パラメータ	78
日付妥当性検査	78
Web 生成	79
ダイアログ ボックスの終了	79
フォーカス イベント	79
モーダル ダイアログ ボックスおよびモードレス ダイアログ ボックス	80
ツールセット	80
シームレスなアップロードおよびダウンロード	80
LAN からの CA Gen コンポーネントの実行	81
HTML コントロールおよび HTML テキスト オブジェクト	81
全角文字列ルーチン	81
.NET Framework 3.5	81
Web コントロールおよび ASP.NET	82
タブ コントロール	82
Treeview Web コントロール	82
小数フィールドの編集パターン	82

CEM (Common Edit Modification)	83
オンライン ヘルプ	83
アプリケーションのマイグレート	84
Windows C アプリケーションのマイグレート	84
UNIX/Linux C アプリケーションのマイグレート	84
z/OS アプリケーションのマイグレート	85

第 12 章: ドキュメントの変更点 89

マニュアル選択メニュー	89
新たに提供されるマニュアル	89
既存ガイドへの変更	90
削除されたガイド	90

第 13 章: 既知の問題 91

ビルド ツール	92
Client Server Encyclopedia	92
DB2 z/OS テーブルスペース区分プラグイン	93
マニュアル	93
[Enterprise JavaBeans (エンタープライズ ID)]	93
Enterprise JavaBeans Web Services	93
Gen Studio	94
Linux IT インストール	94
プロキシ生成	95
ランタイム アプリケーション	95
ランタイム ASP.NET	95
配布ランタイム	95
ランタイム GUI	96
SuSE SLES 11 のインストール	96
トランザクション イネーブラ/ユーザ ファンネル	96
ツールセット	97
UNIX インストーラ	97
Web View	98
Web Service Access Designer	98
Windows インストーラ	99
z/OS	99

第 14 章: サードパーティ ソフトウェア使用許諾契約 101

第 1 章: はじめに

CA Gen リリース 8.5 がリリースされた後で、以下の新機能が PTF として導入されました。PTF とは別に、これまでに 3 つの Incremental Release がリリースされました。以下の章では、各 Incremental Release で追加された機能について説明します。

CA サポート上の CA Gen リリース 8.5 リリース ノートのバージョンは、リリース ノートの他のどのバージョンよりも優先されます。

AllFusion Gen の旧リリースからのアップグレードに関する詳細については、ご使用のリリースから CA Gen リリース 8.5 までのすべてのリリースのリリース サマリ/ノートを参照し、ご使用のリリース以降の変更点を確認してください。すべてのリリースのリリース サマリ/ノートは [CA Support Online](#) で入手できます。

CA Gen に関する公開済みの修正については、CA サポート サイト (<http://ca.com/jp/support>) で、公開済みの解決策に関するセクションを参照してください。

第 2 章: CA Gen Interim Enhancement 1 のリリースまでの CA Gen 8.5 の変更

.Net クライアントと WebSphere MQ

現在提供されているサポートによって、.NET ベースのクライアント（ASP.NET、.NET プロキシおよびコンポーネント サービス サーバ）は、WebSphere MQ 下で実行される CA Gen サーバへの協調フローを実行できます。CA Gen サーバは、Windows、UNIX または z/OS マシン上で C または COBOL に基づいて実行される可能性があります。

.Net プロキシを実行するためには、以下の構成手順が必要です。

- 転送プロトコルとして WebSphere MQ を使用して .Net プロキシを実行するために、WebSphere MQ v7.1 が必要です。
- デフォルトの .Net プロセス ID を使用する代わりに、現在のユーザ認証情報を使用して認証するように ASP.NET web.config ファイルを変更します。
- ホスト環境が UTF8 形式をサポートしない場合は、UTF8 の代わりに 1252 を返すようにエンコーディング ユーザ エグジットを変更して、ユーザ エグジットを再構築します。

.NET 生成アプリケーション

CA Gen リリース 8.5 には、.NET 生成アプリケーションの再生成を必要とする更新が含まれます。

再生成

CA Gen リリース 8.5 には、更新された .NET アセンブリ バージョン番号および公開鍵が含まれています。これにより、CA Gen リリース 8.5 で生成されたアプリケーションと CA Gen 8.0 で生成されたアプリケーションを同時に実行できます。CA Gen リリース 8.5 環境で動作するように、.NET および C# アプリケーションを再生成する必要があります。

DBMS 接続情報

クライアントおよびサーバの .NET アプリケーションでは、DBMS 接続情報が `web.xml` および `application.xml` 構成ファイルに移動しました。これらのファイルでは、アプリケーション アセンブリ ステップ中に接続情報を暗号化するように指定できます。

.NET プロキシ

.NET XML プロキシのエクスポート日付ビュー形式は、.NET XML プロキシが Java XML プロキシおよび他の CA Gen クライアントと一致するように変更されました。この変更によって、.NET XML プロキシのエクスポート日付ビューが .NET XML プロキシのインポート日付ビューと一致します。CA Gen r7.6 では、インポート日付ビューは通常の YYYYMMDD 形式（例 20130523）でした。その一方でエクスポート日付ビューは、C# DateTime 構造体のデフォルトの形式（例 5/23/2013 12:00:00 AM）で返されました。CA Gen r8 で行なわれた変更によって、通常の YYYYMMDD 形式でエクスポート日付ビューが返されるようになりました。これにより、インポート日付ビューとエクスポート日付ビューの両方に一貫したロジックを持つことが可能になりました。

製品マニュアルへのアクセス

CA Gen のガイドは現在、<http://ca.com/support> and on wiki - <https://wiki.ca.com/display/GEN85/CA+Gen+Home> からダウンロードで入手できます。

BLOB

CA Gen リリース 8.5 では、BLOB サポートの第 2 段階として、BLOB を生成アプリケーション（外部アクションブロックを含む）に渡せるように、BLOB をデータベースに格納およびデータベースから取得することができ、さらに BLOB をビューに含めることができます。この機能には、ユーザ インターフェース、ファイルシステム インターフェース、または他のシステム インターフェースでの BLOB データの表示または収集は含まれません。

ほとんどの CA Gen ターゲット データベースが BLOB データ型をサポートするので、アプリケーション内のサポートを活用できるようになりました。

CA Gen リリース 8.5 で BLOB を使用する場合に考慮すべき点には、以下が含まれます。

- 1 つ以上の BLOB 属性を、IMPORT、EXPORT、ENTITY ACTION または LOCAL として定義されたビューに含むことができます。
- BLOB 属性は常に可変長です。
- BLOB 属性を任意または必須として、他の属性タイプと同じ方法で指定します。
- BLOB ビューは、プロシージャ ステップとアクションブロック（外部アクションブロックを含む）間で受け渡しします。
- アクション図の BLOB の操作は、それらの値を NULL または別の BLOB の値に設定して、それらを NULL と比較することに制限されています。
- BLOB は以下のテクノロジーでサポートされています。
 - Windows / C / Oracle、DB2、SQL Server（ODBC）
 - UNIX、LINUX / C / Oracle、DB2
 - CLR / C# / ADO.NET - Oracle、DB2、SQL Server
 - JVM / JAVA / JDBC - Oracle、DB2、SQL Server
- BLOB 属性ビューはすべての SQL ステートメント（CREATE、READ、UPDATE、DELETE）、およびエンティティ ビューで機能する SQL 以外のステートメント（SET、USE...）で使用できます。

注:

- BLOB 属性ビューは画面またはウィンドウ/ダイアログ ボックスに配置されません。
- BLOB 属性ビューは識別子として使用されません。また、区分の分類属性としても使用されません。
- BLOB 以外の属性ビューは BLOB 属性ビュー値に設定できません。また、BLOB 属性ビューは BLOB 以外の属性ビュー値に設定できません。

ビルド ツール

Java ランタイムの提供廃止

リリース 8.5 から、CA Gen では Java ランタイムのコピーが提供されません。JRE のインストールはお客様の責任となります。

Windows では、%GEN85JRE% 環境変数を Java ランタイム ホーム ディレクトリに設定する必要があります。ビルド ツールは 64 ビットの JRE で機能しますが、Gen Studio および ダイアグラム トレース機能には 32 ビットの JRE が必要です。

UNIX/Linux では、新しい環境変数 \$IEFJRE を Java ランタイム ホーム ディレクトリに設定する必要があります。

CA Gen チュートリアル

CA Gen チュートリアルでは、CA Gen の機能を紹介します。チュートリアルは、分析から設計、構築、テストまで開発ライフサイクル全体に及びます。新規の CA Gen 開発者を対象とするが、リフレッシュャーとしておよび新技術を導入するためにも使用できます。チュートリアルを開始して開発プロセスを進めるために、「スタータ モデル」が用意されています。CA Gen 8.5 については、実際にチュートリアルの特定のセクションを完了する代わりに使用できる、または自身の作業と照合するために使用できる「完了モデル」も用意しています。これらの「完了モデル」は、分析、設計および構築の完了と一致する作業に相当します。これらのモデルは「スタータ モデル」と共に CA Gen で導入されます。

CA Gen チュートリアルでは、Web をターゲットにするウィンドウ アプリケーションおよび協調アプリケーションの構築について説明します。Web ビュー アプリケーションをサポートする CA Gen の新機能によって、シナリオ「CA Gen Studio で Web ビュー アプリケーションとしてチュートリアル モデルを構築する方法」が作成されました。CA Gen チュートリアルおよびシナリオは、どちらも CA サポートの Web サイトからダウンロードできます。

CA Gen Studio

CA Gen 8.0 に導入された CA Gen Studio は、複数の CA Gen 開発ツール用のプラグインフレームワークで、さまざまなツールで必要とされる共通機能が用意されています。CA Gen Studio は、サポートされた CA Gen ツールおよびサードパーティの Eclipse ベースのプラグインに統合できます。

Eclipse は、ソフトウェア開発用および管理用の拡張可能なアプリケーションフレームワーク、ツール、およびランタイム ライブラリで構成される、ソフトウェアプラットフォームです。主に Java で記述され、ソフトウェア開発者および管理者に IDE (Integrated Development Environment、統合開発環境) を提供します。独自のプラグインモジュールを作成し、他のプログラミング言語の開発ツールキットなどの Eclipse ソフトウェアフレームワーク用に記述されたプラグインをインストールすることにより、CA Gen Studio 機能を拡張できます。

CA Gen 8.0 の CA Gen Studio の初期リリースには、以下の 3 つの設計ツールが含まれていました。

Web Service Access Designer

アクションを定義してビジネス オペレーションにマップします。これらのアクションは、ブラウザでイベントが起動されると実行されます。Web ページの設計には **Adobe Dreamweaver** を使用できます。

PStep Interface Designer

CA Gen サーバ プロシージャ ステップに対してカスタマイズされた Web サービス インターフェースおよびプロキシを作成します。

Web View UI Generation

Web ビュー アプリケーションの既存のモデルから Web コンテンツ（HTML ファイル、JavaScript ファイルおよびカスケーディング スタイルシート ファイル）を生成します。

Client Server Encyclopedia

CA Gen は UNIX/HP CSE および UNIX/AIX CSE でのプロキシ生成をサポートします。

クライアント サーバ エンサイクロペディア サーバ

CA Gen リリース 8.5 クライアント サーバ エンサイクロペディア サーバには以下の変更が行われました。

CA Gen Studio によって作成された構成インスタンスのサポート。

構成インスタンスのサポートとは、Gen 8.5 の使用時に、構成をモデル内に格納でき、それによりエンサイクロペディアとの間で構成のアップロードおよびダウンロードが可能になったことを意味します。この機能は、Gen 8.5 の GA リリースで提供されました。詳細については、「*Client Server Encyclopedia Subsetting User Guide*」および「*Client Server Encyclopedia Version Control User Guide*」を参照してください。

注: クライアント サーバ エンサイクロペディアでは、構成を「構成インスタンス」と呼びます。CA Gen Studio では、構成を「生成構成」と呼びます。

以下の一貫性検査規則が CA Gen 8.5 の CSE に追加されました。

ICCCU20E

USE ステートメントを使用すると再帰になります。

ICCDL04E

対話フローにある「リターン・オン」エグジット・ステートが 8 個を超えています。8 個以下になるまで、この「リターン・オン」エグジット・ステートを削除してください。

ICCDV23W

マッチングされたビュー同士は、NULL 可能設定が同じでなければなりません。

ICCDX01E

この言語テキスト文字列は、対応する言語テキスト文字列のない省略時の言語のコマンド名とマッチしています。

ICCEN18W

目標属性ビュー (COUNT 以外の数値総計関数の) が、関数の引数で使われる式の 1 つより小数位 (小数点の右) が少なくなっています。

ICCEN19W

目標属性ビュー (COUNT 以外の数値総計関数の) が、関数の引数で使われる式の 1 つより小数位 (小数点の左) が少なくなっています。

ICCEN30W

目標属性ビュー（文字総計関数の）が、関数の引数として使われる文字ビューよりも短くなっています。

ICCEN31W

総計関数 **COUNT** (**OCCURRENCES**) の目標属性ビューの整数部（小数点の左）が、関数の引数となっているエンティティ タイプの 1 つの最大カージナリティより少なくなっています。

ICCOO01W

Web クライアント アプリケーションで関数を実行できません（詳細はヘルプ ファイルを参照）。

ICCOO02W

OLE 関数は以下のプラットフォームでサポートされていません（詳細はヘルプ ファイルを参照）。

- Linux
- UNIX（すべて）
- MVS
- CLR

ICCOO03W

ASP.NET アプリケーションで関数を実行できません。

ICCOO04W

CreateNetObject は .NET 環境でのみサポートされます。

ICCOO05W

関数が **C#** または **Java** でマルチスレッドセーフではありません（詳細はツールセット ヘルプを参照）。

ICCOO06W

Web ビュー・アプリケーションでは実行できないファンクションです。

ICCPV10W

10 進数小数が定義されていない数値フィールドが、10 進数小数を含む編集パターンを使用しています。

ICCRD10F

(DB2 z/OS) 4050 バイトを超えるデータ テーブルは、32K ページバッファ プールのテーブルスペース内にある必要があります。

ICCWN05W

このウィンドウには、入力可能ドロップダウンリストがあります。入力可能ドロップダウンリストは、**Web** クライアント アプリケーション、**ASP.NET** アプリケーション、**Web** ビュー アプリケーションでサポートされていないため使用できません。

ICCWN06W

このウィンドウには入力可能リストがあります。入力可能リスト・ボックスは、**Web** クライアント・アプリケーション、**ASP.NET** アプリケーション、**Web** ビュー・アプリケーションでサポートされていないため使用できません。

ICCWN07W

このウィンドウの入力フィールドにはオート タブ機能があります。この機能は、**Web** クライアント・アプリケーション、**ASP.NET** アプリケーション、**Web** ビュー・アプリケーションでサポートされていないため使用できません。

ICCWN14W

このウィンドウには複数の状態を持つビットマップがあります。複数の状態を持つビットマップは、**ASP.NET** アプリケーションではサポートされていないため使用できません。

ICCWN15E

生成は、同じウィンドウ上の同じ名前を持つ複数のウィンドウ制御をサポートしません。ナビゲーション図を使用して制御の特性を詳細化し、個別の名前に変更してください。

ICCWN16W

このウィンドウには[**OCX** コントロール]があります。**OCX** コントロールは、**ASP.NET** アプリケーションまたは **Web** ビュー アプリケーションでサポートされていないため使用できません。

注: CA Gen 8.0 ツールセットには、これらの一貫性検査規則がすでに含まれています。

CSE クライアント

CA Gen リリース 8.5 CSE 構築クライアントでは、生成オプションとして **NonStop** が表示されます。ただし、**NonStop** 生成はサポートされていません。

CICS ソケット リスナ

CICS ソケット サーバリスナ（プログラム TISRV LIS）は CA Gen リリース 8.5 でサポートされていますが、制限があります。このリスナを 32K を超える共通フォーマット バッファによって使用することはできません。バッファ サイズが 32K バイトを超えている場合、メッセージ「TISRV LIS <eibtrnid> TASK=<eibtaskn> date time TISRV LIS CANNOT PROCESS REQUEST GREATER THAN 32K」によって要求が拒否されます。CICS マルチ ソケット リスナにこの制限はありません。

カスタム・プロキシ

以前に Web サービスとしての使用が想定されていたカスタム インターフェースのみが、現在、プロキシとしても機能することができます。

CA Gen 8.0 の Gen Studio で導入された PStep Interface Designer により、ユーザは EJB Web サービス アプリケーションをターゲットとする PStep 用の別のインターフェースを提供できます。

別のインターフェースとは、元の PStep インターフェースのカスタマイズバージョンであり、選択した属性の順序のハードコーディング、名前変更、または変更、および選択したビューの名前変更を含む場合があります。その後、カスタマイズされたインターフェースはモデルに保存されます。

Java プロキシおよび C# プロキシと共に使用するカスタム インターフェースを作成できます。

既存のプロキシ インターフェースは、サーバプロシージャ ステップで定義されたすべてのビューおよび属性を定義されているようにエクスポートします。ただし、指定された名前ですべてをエクスポートすることは、クライアント開発者にとって必ずしも理想的なインターフェースとはいえません。

カスタム プロキシ は、サーバプロシージャ ステップで定義されたビューおよび属性用に以下の機能を提供します。

- ビューの名前変更
- ビュー内の属性の名前変更
- ビュー属性のリテラルへのマッピング

- ビュー属性の削除
- ビュー属性の保持

カスタム プロキシ機能は以下のターゲットをサポートします。

- XML および **async** のオプションを含むクラシック以外の **Java** プロキシ
- XML および **async** のオプションを含む **.NET** プロキシ

DB2 テーブル区分

CA Gen リリース 8.5 から、DB2 は範囲および成長率のテーブルスペース区分と同様に、範囲およびサイズのテーブル区分をサポートします。CA Gen リリース 8.5 でこの新しい機能をサポートするために、2 つの新しいプラグインアプリケーション（テーブル区分プラグインおよびテーブルスペース区分プラグイン）が、DDL の生成に必要な情報を収集してこれらの新しいタイプの区分をサポートするように作成されました。

プラグインは、CA Gen カスタム インストール ダイアログ ボックスからインストールできます。インストール後、テーブル区分プラグインは、テーブルが選択されている場合は常に、データ構造リストおよびデータストアリストの [ツール]、[プラグイン] メニューで有効です。テーブルスペース区分プラグインは、テーブルスペースが選択されている場合は常に、データストアリストの [ツール]、[プラグイン] メニューで有効です。

CA Gen z/OS 製品のダウンロード

CA Gen リリース 8.5 では、CA CSM 準拠の ESD（Electronic Software Delivery、電子ソフトウェア配布）PAX ファイルを使用して、z/OS 製品を提供します。

CA CSM により、CA Gen リリース 8.5 のソフトウェアおよびメンテナンスを CA サポートの Web サイトから直接取得できます。

注: CA CSM の詳細については、<http://ca.com/jp/support> で CA Support Online を参照してください。

The CA Common Services for z/OS のソフトウェアも CA ESD 形式を使用して提供されます。

注: CA Common Services for z/OS のインストールの詳細については、<http://ca.com/jp/support> の CA Support Online で ESD トピックを参照してください。

環境変数の変更

CA Gen リリース 8.5 には、2 つの新しい Windows 環境変数 (%GEN85% および %GEN85JRE%) が含まれています。これらの環境変数は、CA Gen 8.0 で導入された 2 つの新しい環境変数を模倣します。

%GEN85%

CA Gen インストール用のルートディレクトリのロケーションを指定します。この環境変数には、`c:\Program Files\CA\Gen 85\` のように、末尾に区切り文字が含まれています。 %GEN85%Gen を使用して %Gen サブディレクトリを参照します。 %GEN85% を使用することにより、この環境変数は以前の CA Gen インストールから区別され、Side-by-Side インストールがサポートされます。

%GEN85JRE%

Java ランタイム環境 (JRE) 用のインストールディレクトリを指定します。 %GEN85JRE% を使用することにより、この環境変数は以前の CA Gen インストールから区別され、Side-by-Side インストールがサポートされます。

32 ビットの JRE がシステムにすでにインストールされている場合、インストールによって GEN85JRE が設定されます。 64 ビットの JRE のみがインストールされている場合は、CA Gen Studio およびダイアグラムトレースユーティリティが 64 ビットの JRE で動作しないので、インストールによって GEN85JRE が設定されることはありません。

64 ビット Windows の場合、%GEN85JRE% を 32 ビットの JRE に設定する必要があります。

UNIX/Linux プラットフォームの場合、CA Gen リリース 8.5 には 1 つの新しい環境変数 (\$IEFJRE) が含まれています。

\$IEFJRE

Java ランタイム環境 (JRE) 用のインストールディレクトリを指定します。

ホスト エンサイクロペディア

CA Gen リリース 8.5 ホスト エンサイクロペディアには以下の変更が行われました。

CA Gen Studio によって作成された構成インスタンスのサポート。

構成インスタンスのサポートとは、Gen 8.5 の使用時に、構成をモデル内に格納でき、それによりエンサイクロペディアとの間で構成のアップロードおよびダウンロードが可能になったことを意味します。この機能は、Gen 8.5 の GA リリースで提供されました。詳細については、「*Host Encyclopedia Subsetting User Guide*」および「*Host Encyclopedia Version Control User Guide*」を参照してください。

注: ホスト エンサイクロペディアでは、構成を「構成インスタンス」と呼びます。CA Gen Studio では、構成を「生成構成」と呼びます。

GUI ランタイム

ヘルプのヘルプ

Windows 7 および Windows Server 2008 では、ヘルプの索引が表示されるようにヘルプのヘルプの動作が変更されました。これらのオペレーティングシステムにはシステム ヘルプ ファイルが含まれません。

Java 生成アプリケーション

再生成

CA Gen リリース 8.5 では、更新された Java パッケージ名が生成アプリケーションに含まれています。これにより、CA Gen リリース 8.5 で生成されたアプリケーションと CA Gen 8.0 で生成されたアプリケーションを同時に実行できます。CA Gen リリース 8.5 環境で動作するように、Java アプリケーションを再生成する必要があります。また、新しいパッケージ名を使用するようにすべての外部アクションブロックを更新する必要もあります。

Java プロキシ

Java プロキシ用の XML インターフェースの生成には、スキーマ検証が使用されるようになりました。これは .NET プロキシでの動作と一致します。

Gen Studio

共通ワークスペース ロケーション

CA Gen Studio およびダイアグラム トレースに同じワークスペースが使用されるようになりました。

Gen Studio 生成

Web View の初期リリースでは、ユーザが Gen Studio を使用して Web コンテンツを生成する必要がありました。これには、HTML ファイル、JS ファイルおよび CSS ファイルなど、WebViewUI 出力ディレクトリ内のすべてのコンテンツが含まれていました。生成の残りの部分はツールセットで行われました。この追加のコンテンツには、主に Java コード、インストールファイル (ICM) および DDL コードがあります。Gen Studio Generation 機能によって、Web コンテンツ、アプリケーションサーバランタイム サポートおよび DDL など、Web View に必要なすべての生成は、Gen Studio 内から行われます。

Gen Studio Generation 機能では、各モデルの複数の生成構成を管理する機能も導入されました。構成はファイルシステム上に格納されます。

Gen Studio Generation のユーザ インターフェースは最新の UI 標準に従います。Eclipse ですでに存在しているものについては、Gen Studio Generation 構成に使用されるパラダイムは、ビルトイン Eclipse 実行/デバッグ構成と同じです。

構成は、Gen Studio 内から [Generation Configuration] ダイアログ ボックスを使用して追加、変更、および削除できます。

生成構成の作成後に、構成を「実行」して、構成で選択したモデル オブジェクトを生成できます。 **Web View UI** ナビゲータから構成を「実行」して、構成で選択したモデル オブジェクトを生成することもできます。これは、全生成が完了済みで、特定の変更されたオブジェクトのみを再生成する必要がある場合に役立ちます。

CA Gen リリース 8.5 では、生成構成をモデルに格納できます。モデルに追加した構成はサブセットに含めることができます。

注: 既存の構成は現在のリリースで動作しないので、構成を再作成する必要があります。モデルに使用できる構成がある場合は、最新のバージョンをインストールする前にこれらの構成を削除してください。

プラグインのレジストリの場所

CA Gen では、プラグイン アプリケーションが以下の場所に登録されます。

Windows 32 ビット マシン

HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥ComputerAssociates¥CA Gen¥Plug-ins

Windows 64 ビット マシン

HKEY_LOCAL_MACHINE¥Software¥Wow6432Node¥ComputerAssociates¥CA Gen¥Plug-ins

32 KB の CFB 制限の削除

共通フォーマットバッファ (CFB) には、TCP/IP、Tuxedo および WebSphere MQ などのさまざまなトランスポートによって、CA Gen クライアントと CA Gen サーバ間で渡される、フォーマットされた情報が含まれます。このリリース以前は、バッファのサイズが 32,768 バイト (32 KB) に制限されていましたが、含めることができる実際のユーザデータは 31,400 バイトのみでした。

CA Gen 8.5 は、最大 CFB 制限 16,777,215 バイトをサポートしていますが、実際のユーザデータは 16,775,847 バイトに制限されます。

これより大きなサイズを利用するには、ビュー サイズを適切に変更し、アプリケーションを再生成および再ビルドする必要があります。同様に、使用する可能性があるトランスポート上のサイズ設定パラメータを確認してください。これには、WebSphere MQ メッセージのデフォルトの長さ、および z/OS では TIRSIPEZ のようなユーザ エグジット、TICASUTP および TICASUTS パラメータによって割り当てられた一時作業データセット (TIUHE および TIUIT PARMLIB メンバ内にあります) が含まれますが、これだけではありません。

CA Gen 8.x によって生成され CA Gen 8.5 ランタイムを実行する z/OS CA Gen CICS アプリケーションでは、MMCB<APPLID>... という名前の TSQ を使用して、メモリ管理を処理します。対話フローが CA Gen の管理下で実行される場合、この TSQ は自動的に削除されますが、フローが EAB から実行される場合 (特に CICS XCTL コマンドまたは CICS START API コマンドを使用する場合) は、手動で削除する必要があります。

CA Gen 7.6 またはこれ以前のリリースによって生成され CA Gen 8.5 ランタイムを実行する z/OS CA Gen CICS アプリケーションでは、AMCB<APPLID>.... という名前の TSQ を使用して、メモリ管理を処理します。対話フローが CA Gen の管理下で実行される場合、この TSQ は自動的に削除されますが、フローが EAB から実行される場合 (特に CICS XCTL コマンドまたは CICS START API コマンドを使用する場合) は、手動で削除する必要があります。

TCP/IP を使用する z/OS サーバは、32 KB より大きな CFB でのトランザクションに、CICS マルチ ソケット サーバインプリメンテーションを使用する必要があります。

z/OS の暗号化および復号化ルーチンは、ビューデータのサイズが 32 K を超える場合は一時バッファを使用するように変更されました。一時的に割り当てられるサイズはビューデータのサイズの 2 倍であり、最大サイズ 16.7 MB を超えないようになっています。この一時バッファは、アルゴリズムがバッファの処理を完了するとすぐに解放されます。メッセージ TIRM640 および TIRM644 は、暗号化および復号化ルーチンで使用するユーザ領域が 32 K を超えたことを示すのではなく、最大許容サイズを超えたことを示すように変更されました。

注: PTF RO72754 では、一時バッファの割り当てが修正されました。それまでは、常に最大サイズの 16.7 MB が割り当てられており、パフォーマンス低下の原因になっていました。

32 KB の CFB に適合する最新のアプリケーションでは、新しいランタイムで動作するための変更は必要ありません。

注: z/OS サーバ マネージャのインポート ビューおよびエクスポート ビューの最大カージナリティは、9999 のままです。

現在、完全に Java および .Net 環境用に生成されたアプリケーションにはビューサイズ制限がありません。Windows、UNIX および Linux 上の CFB 拡張 (TCP/IP および WebSphere MQ 用) は、16.7 MB に制限されています。

以下の CA Gen コンポーネントでは 32 KB 制限を超えることはできません。

- Tandem C サーバ
- SNA/CPI-C サーバ
- ECI トランスポート
- WebSphere MQ TDC
- CICS ソケット サーバリスナ (TISRVLIS)
- IMS サーバ

サーバランタイム

AIX 用の IEFPLATFORM 変数

AIX 用の IEFPLATFORM 変数が RS6000 から IEF_AIX に変更されました。

64 ビット CA Gen サーバのサポート

64 ビット Windows サポート

CA Gen は、Visual Studio を使用して Windows 上で 64 ビット イメージとして生成された、C ブロック モードおよびサーバアプリケーションのコンパイルおよび実行をサポートします。新しいビルドツールトークン

(OPT.BITS) をプロファイルで 64 に設定することにより (デフォルトは 32)、64 ビットとして生成された C ブロック モードおよびサーバアプリケーションの構築を選択できます。64 ビット イメージを作成するために Windows X 64 API で使用される、64 ビット データ タイプへのアクセスを可能にするコードを再生成する必要があります。再生成されたコードは、OPT.BITS ビルドツールトークンの設定によって、32 ビット X86 バイナリまたは 64 ビット X64 バイナリのいずれかへコンパイルできます。

VS110¥amd64 フォルダには、64 ビット Windows をサポートするファイル群が含まれています。OPT.BITS トークンを 64 に設定するときに、共有ライブラリおよび VS110¥amd64 フォルダ内の実行可能ファイルが利用されます。一連のユーザ エグジット再構築手順も VS110¥amd64 フォルダに含まれており、必要な 64 ビット指定ユーザ エグジットを再構築するために使用する必要があります。

アプリケーションの実行に CA Gen が提供する 64 ビット ランタイムの使用を選択する場合は、PATH を変更して %GENxx%Gen¥VS110 および %GENxx%Gen の前に %GENxx%Gen¥VS110¥amd64 を追加する必要があります (使用する Visual Studio コンパイラに基づく)。64 ビット アプリケーションを構築して、PATH を変更せずにビルドツールの外部で実行すると、アプリケーションがクラッシュします。ビルドツールから実行する場合、ビルドツールは 64 ビット ランタイム ライブラリを使用する必要があることを認識し、アプリケーションが実行されます。

注: 現在のコマンドウィンドウセッションで PATH に %GENxx%Gen¥VS110¥amd64 を付加することのみが必要であり、システム環境変数には設定しないでください。

64 ビットの AIX、Solaris および Linux のサポート

64 ビットのプラットフォームへのベンダー移行のため、CA は、残りの Unix および Linux のプラットフォーム（HP Itanium はすでに 64 ビットをサポートしています）用に 64 ビット モードで動作するインプリメンテーション ツールセットを移植しました。このリリースで構築されたすべての生成サーバでは、64 ビット アプリケーションが作成されます。32 ビットのサポートが廃止されたので、このリリースの前に構築されたすべてのサーバを、このバージョンのインプリメンテーション ツールセットで実行されるように再構築する必要があります。

注: AIX 上の CA Gen CSE は、32 ビットの製品として引き続き動作します。

Linux 上の Tuxedo のサポート

現在 CA は、Linux システム上で Tuxedo によって生成されたサーバ アプリケーションのコンパイルおよび実行をサポートしています。

64 ビット サポートに匹敵する 32 ビット サポート

すべての CA Gen 製品および生成アプリケーションは、このドキュメントで特に明記されていない限り、すべてのプラットフォームで 32 ビットです。そのため、CA Gen 製品および生成アプリケーションは、32 ビットおよび 64 ビットのシステムで構築および実行されるために、32 ビットのランタイムおよびライブラリを必要とします。このドキュメントに記載されているサードパーティ配布製品のベンダーの多くが、32 ビットバージョンのランタイムを提供しています。64 ビットのオペレーティング システムで動作し、64 ビット データベースと通信する CA Gen 生成 32 ビット アプリケーションと共にこれらのライブラリを使用できます。

システム要件

システム要件については、CA Gen サポート ホーム ページ

(<https://support.ca.com/iri/portal/prddtlshome?productID=256>) の [Product Status] - [Product Information] で、「CA Gen 8.5 Technical Requirements」ドキュメントを参照してください。

ツールセット

CA Gen リリース 8.5 ツールセットには以下の変更が行われました。

データ構造リストで、長さが **4000** を超えている **DB2** テキスト列のデータタイプとして **VARCHAR** を選択できます。以前は、**LONG VARCHAR** のみが使用できました。

DB2 の場合、「タイプ 2」が唯一許可されている索引タイプです。これを「タイプ 1」または「未指定」に設定することはできなくなりました。

[ヘルプ・バージョン情報ボックス] の **DLL BROWSER** は **DLL** の新バージョンです。これにはファイルのリスト、各ファイルに関する詳細情報が含まれ、これによりサブディレクトリをブラウズできます。

[生成の省略時解釈] で、**TP** モニタを **IEFAE** とする代わりに **OS** を **WINDOWS** にすることで、オプション **<NONE>** は **COMMUNICATION** オプションから削除されました。

ツールセット内の新規モデルの生成機能に変更されました。変更の目的は、**update.trn** を「常書き込み可能な」出力ディレクトリに格納することでした。また、**update.trn** がすでにその場所に存在する場合は、上書きする前にプロンプトが表示されます。出力ディレクトリの場所は [新規モデルの生成] ダイアログ ボックスに表示されます。この変更によって、新規モデルの生成機能を読み取り専用モデルに対して有効にすることもできます。さらに新規モデルの生成機能を実行した後、そのモデルが読み取り専用状態のままになることはありません。

CA Gen リリース 8.5 ツールセットでは、構築の生成オプションとして **NonStop** が表示されます。ただし、**NonStop** 生成はサポートされていません。

データ・モデル

CA Gen は、日付、時刻、およびタイム スタンプのフィールドにおいて、ユーザ定義のデフォルト値をサポートします。

Model Preferences (モデル設定)

以下のモデル基本設定を設定することができます。

- 識別されない必須関係に **NOT NULL** を許可 - この機能によってユーザーは変換中および再変換中に識別されない必須関係を実装する方法を選択することができます。それらの関係は **NULL** として実装されていますが、この機能を使用することで **NOT NULL** として実装することができます。
- DDL 内のコメントの生成 - この機能は **IBM DB2** データベース上でのみ適用されます。DDL を生成する場合、生成されたアイテムに関連付けられたコメントはいずれも、生成された **DDL** に取り込まれます。この機能では、このようなコメントが、生成された **DDL** に取り込まれてはならないことを指定できます。
- 4000 文字を超える **DB2** テキスト フィールドには **LONGVAR** ではなく **VARCHAR** を使用 - この機能は **IBM DB2 z/OS** 上でのみ適用されます。文字数が 4000 文字を超える **DB2** テキスト属性の実装タイプは **LONGVAR** でした。このデータ型は **IBM** によって推奨されていないので、この機能を使用して **VARCHAR** を代わりに選択します。
- インライン コード ステートメントでの文字数を制限します。

モデルのロック解除

ツールセットから **CSE** へのモデルまたはサブセットのアップロードを要求したときや、モデルが **CSE** によってロックされている場合は、後で再試行するようにエラー メッセージが返されます。このエラー メッセージが発生すると、モデルは読み取り専用に設定されます。この拡張機能を使用すると、ツールセットの動作方法を続行することも（すなわち、モデルは読み取り専用になるので、後でアップロードを再度試行する必要があります）、更新試行を取り消して、モデルの更新を続行することもできます。

DDL 生成時におけるコメントでの単語分割

COMMENT ステートメント内で単語分割を行わないように **DDL** 生成を変更しました。この拡張機能により、**COMMENT** ステートメント内に追加のスペースが生じる場合があります。

ツールセットの操作性に優れた拡張機能

- ナビゲーション図内の選択されたコントロールからのアイテム情報をプラグインアプリケーションに渡します。**Gen** ツールセット用のプラグインアプリケーションを設計しながら、ナビゲーション図内の開いているウィンドウで選択されているコントロールを特定できます。以前、その情報は、ナビゲーション図の右下隅のペインでコントロールが選択された場合にしか取得できませんでした。
- 関係を追加した場合に表示されるデフォルトの削除規則。エンティティ関係図で関係を作成する場合、デフォルト削除規則は適切なラジオボタンが設定された状態で示されます。この拡張機能は必須というわけではないですが、これにより、関係を追加した後に手動で規則を設定する必要がなくなります。
- 必要な場合にのみ表示される「ビュー マッチング」ダイアログ ボックス。**USE** ステートメントを追加するときには、マッチさせるビューが存在する場合にのみ、「インポート/エクスポート ビュー マッチング」ダイアログ ボックスが表示されます。以前は、呼び出されたアクション図にマッチさせるパラメータがなくても、「インポート/エクスポート ビュー マッチング」ダイアログ ボックスが表示されていました。インポートおよびエクスポート ビューの存在に合わせてアクション図に **USE** ステートメントを追加している間、ダイアログ ボックスが表示されます。以前は、インポートまたはエクスポート ビューを持たないアクション図に **USE** ステートメントを追加する間、ビュー マッチングダイアログ ボックスを明示的に閉じる必要がありました。この拡張機能により、**USE** ステートメントを簡単に追加できるようになりました。
- アクション図を選択するダイアログ ボックスからアクション図を作成します。アクション図を作成するために「新規」ボタンが「アクション・ダイアグラム名」ダイアログ ボックスに追加されています。この「新規」ボタンにより、アクション図の作成が簡略化されます。
- デフォルトのインポート エンティティ ビューのオプションリティが必須に設定されています。アクション図のインポート ビューを作成している間、エンティティ ビューおよび選択された属性ビューのオプションリティのデフォルト値は必須（「つねに」）です。

注: この拡張機能は、プロシージャ ステップ アクション図には影響しません。このアクション図では、エンティティ ビューおよび選択された属性ビューのオプションリティのデフォルト値は継続的にオプション（「時々」）に設定されます。

- データ構造図およびデータ ストア リスト図に対して示された区分。データ ストア リストおよびデータ構造リストには、テーブルまたはテーブルスペースがテーブル区分プラグインまたはテーブルスペース区分プラグインのどちらで区分されたかが示されます。これにより、2つの図でテーブルおよびテーブルスペースの区分ステータスを確認するのが簡単になります。
- 並べ替え操作が実行された後で、[ウィンドウの選択] ダイアログボックス内の [プロシージャ ステップ] の選択内容を保持します。これにより、並べ替えが実行される前に選択された項目は並べ替えが完了した後も確実に維持されます。
- 言語ウィンドウに一覧表示されたプロシージャ ステップについて、[ウィンドウの選択] ダイアログボックスの [プロシージャ ステップ] 名を入力します。これにより、言語ウィンドウが属するプロシージャ ステップを簡単に特定できます。

Web サービス トランザクション イネーブラ

CA Gen リリース 8.5 では、CA Gen トランザクション イネーブラ (TE) 下で実行されるすべての CA Gen サーバが、Web サービス プロトコルをサポートできるようになりました。CA Gen リリース 8.5 以前は、CA Gen EJB サーバのみが Web サービス プロトコルを使用できました。

TE サーバでは、以前からクライアントとの通信に TCP/IP の上で動作する CA Gen の特定のプロトコルが使用されていました。TE 環境は TCP/IP 上の Web サービスをサポートするように変更されました。同じポートが両方のプロトコルに使用されるので、TE に追加された環境設定はありません。Web サービスを使用するには、CA Gen サーバ マネージャの再生成が必要です。ただし、既存の CA Gen サーバ マネージャは、(Web サービス サポートなしで) 引き続き 8.5 TE で動作します。

TE Web サービス WSDL にアクセスするための URL は以下の形式です。

`http://hostname:port/LM/PSTEP?wsdl`

hostname

マシンの名前または IP アドレスを指定します。

port

TE が待機する場所を指定します。

LM

サーバ マネージャのロード モジュール名を指定します。

Pstep

プロセス ステップのロング ネームを指定します。

Web サービスのサポートは、TE を実行する次のプラットフォームに及びます： Windows、AIX、IA64 および Solaris。

Web サービス ミドルウェア サポートが追加されたことで、すべての CA Gen クライアント（C、Java および .NET）が、Web サービスをプロトコルとして使用して TE と通信できるようになりました。

Web サービス ミドルウェア

現在 CA Gen リリース 8.5 では新しい CA Gen Web サービス ミドルウェアを提供しています。これにより、すべての CA Gen 生成クライアント（C GUI、ASP.NET、Web Generation、Web View および C/Java/.NET プロキシ アプリケーション）は、Web サービスをプロトコルとして使用して、CA Gen 生成 Web サービス アプリケーション（現在は EJB Web サービスおよび TE Web サービス）と通信できます。

Web サービス プロトコルをサポートするにあたって、ツールセット、クライアント サーバ エンサイクロペディアまたはジェネレータに行なわれた変更はありません。

上記の CA Gen クライアントと CA Gen サーバ間の通信は、各クライアント ランタイムに関連付けられた Comm 構成ファイル（commcfg.ini、commcfg.properties および commcfg.txt）、および Web サービス ミドルウェア ユーザ エグジットを使用して、Web サービス ミドルウェアを介してルーティングできます。

注：新しい Web サービス ミドルウェアの使用方法の詳細については、「*Distributed Processing - Overview Guide*」、「分散プロセス プロキシ ユーザ ガイド」、「*Distributed Processing - Enterprise JavaBeans User Guide*」、および「*User Exit Reference Guide*」を参照してください。

Web View

CA Gen 8.0 に導入された Web View は、CA Gen Studio の Web View UI Generation ダイアグラムから生成された、新しいタイプの Web アプリケーションです。Web View は、既存の CA Gen Web クライアント技術である Web 生成が発展したものです。Web 生成では、従来の CA Gen GUI 機能を Web 環境でエミュレートすることに重点が置かれていましたが、Web View では、Web 生成と類似した（同一ではない）機能が設定され、より標準的な外見を持つ Web アプリケーションが作成されます。Web View では、スレッド要件の追加やメッセージボックスの「閉じる」ボタンの認識など、Web 生成アーキテクチャによって本質的に制限されていた問題の多くが解決されています。また、Web View には Ajax などの Web 2.0 機能も導入されました。

Web View の拡張機能

JBoss のサポート

Web View は、Oracle WebLogic Server および IBM WebSphere Application Server に加えてアプリケーションサーバとして JBoss をサポートするようになりました。「ビルド・ツールアセンブル」(Build Tool Assemble) ウィザードでターゲットアプリケーションサーバとして「一般」(Generic) を選択することにより、JBoss をターゲットにするアプリケーションを生成できます。

Web View のカスタマイズ

Web View は、カスタム HTML、JavaScript およびカスケーディングスタイルシートの追加をサポートするようになりました。ナビゲーション図で HTML テキストオブジェクトおよび HTML コントロールオブジェクトを使用することで、カスタムコンテンツを追加できます。

HTML コントロールおよび HTML テキストのコンテンツは、Web View と他の CA Gen Web 製品の間で互換性はありません。

コンテンツは XHTML 準拠である必要があります。CDATA セクションは含めることができません。

「&」を使用して特殊文字を回避する必要があります。たとえば、「&」文字は `&` として回避する必要があります

HTML コントロール要素および HTML テキスト要素は、個別の HTML ページとして生成され、`<iframe>` を使用して含まれます。異なる要素間の参照では、これを考慮に入れる必要があります。

CA Gen リリース 8.5 では、`<!DOCTYPE>` タグで HTML テキスト コンテンツを始めることでドキュメント全体を含めることができます。Web View 生成では `<iframe>` 内にコンテンツが含まれます。

ドット表記

このリリースには、使用可能な機能を表示するために拡張されたドット表記機能およびテーブルが含まれます。

ライブラリ更新

Eclipse プラットフォームはバージョン 3.7 に更新されます。

YUI ライブラリはバージョン 2.9.0 に更新されます。

Prototype.js ライブラリはバージョン 1.7 に更新されます。

緩和された CSS 制限

このリリースでは、クローズド Windows 用の CSS を動的にアンロードすることにより、アプリケーションで使用される CSS 記述子の数の制限が緩和されます。

Web コンテンツ圧縮

生成された静的コンテンツは、アセンブルされた **EAR** ファイルで圧縮されるようになりました。

Web View JavaScript ランタイムは、アセンブルされた **EAR** ファイルで圧縮されるようになりました。

OPT.DEBUG キーをビルド ツールの [プロファイル・マネージャ] で [YES] に設定して、**Web View** ランタイムのデバッグ バージョン、**YUI** ライブラリ、および生成された静的コンテンツをアセンブルされたアプリケーションに含めることができます。

z/OS 拡張機能

CA CSM を使用したホスト エンサイクロペディア構成

CA Gen 8.5 ホスト エンサイクロペディアは、**CA CSM** システム構成サービス (SCS) を使用して構成できます。**CA CSM** を使用してホスト エンサイクロペディアをインストール、展開、構成するために必要な手順については、「**z/OS インストールガイド**」を参照してください。

Enterprise COBOL 5

CA Gen 8.5 のホスト構築および **z/OS** インプリメンテーション ツールセットについては、**Enterprise COBOL 5** を使用して **Gen** 生成コードをコンパイルするように設定することができます。

新しいサンプル ライブラリ メンバ **MK5EXITS** を使用すると、**COBOL 5** コンパイラによって **CA Gen** ユーザ エグジットをコンパイルすることができます。

GLOBDATA

CA Gen 8.5 の **GLOBDATA** は変更され、データ領域のサイズが誤って縮小されていました。**Interim Enhancement 1** で、**GLOBDATA** の全体的なサイズは **CA Gen** リリース **8.0** の場合と同じサイズに修正されました。サイズは **3645** バイトです。

新規のメッセージ

メモリ管理を処理する z/OS ランタイムで問題が検出されると、新しいメッセージが作成されます。これらのメッセージのほとんどは CICS Joblog に書き込まれますが、TIRTERMA または TIRELOG エグジットによって表示される場合もあります。新しいメッセージは以下のような形式です。

```
<ExecutingLoadModuleName> TASK=<task-id> date time TIRHSTG MEMORY ALLOCATION ERROR.  
TERMINATION CODE: XXX
```

XXX は以下のいずれかの値です。

- 850 – CFB の場合
- 851 - W-GLOBAL-AREA の場合
- 852 - 任意の HEAP
- 853 – TSQ MNCB*
- 854 – TSQ ANCB*

```
<ExecutingLoadModuleName> TASK=<task-id> date time <Runtime-name> - TASKID XXXX DOES  
NOT MATCH CURRENT TASKID
```

z/OS ランタイム DLL

以下の DLL が CA Gen 8.5 に導入されました。

- CICS アプリケーションでのみ使用される TIRMMDDL。
- CICS アプリケーションによってのみ使用される TIRHSTGC および TIRHSTGD。
- CICS サーバでのみ使用される TIRCALLZ。
- CICS、IMS、および TSO アプリケーションによって使用される TIRIEXSZ。
- IMS サーバでのみ使用される TIRIALZ。

第 3 章: CA Gen Interim Enhancement 1

CA Gen Interim Enhancement 1 では、それ以前のすべての PTF が統合され（個別の PTF をインストールする必要がある z/OS 上では例外）、さらに新機能が追加されています。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Web Service Consumption](#) (P. 41)

[インライン・コード・ステートメント](#) (P. 42)

[Visual Studio 2012 サポート](#) (P. 42)

[Oracle 12 c のサポート](#) (P. 43)

Web Service Consumption

CA Gen provides the facility to consume SOAP Web Services using the Call External statement in an action diagram. Interim Enhancement 1 に含まれる Web サービス使用機能は C アプリケーションを対象としています。

既存の 9.2.A6 モデルで Web サービス使用機能を使用するには、エンサイクロペディア スキーマ テーブルを更新する必要があり、モデルはモデル変換を介して以下のように実行されます。

- For the Host Encyclopedia, reload the schema tables by running CEJOB05 (or CAJOB05) again after applying and deploying Interim Enhancement 1.
- CALL EXTERNAL Web サービス ステートメントをアクション図で使用する場合は、既存のモデルに対してモデル変換を実行し、Web サービス使用によって使用されるオブジェクトをそれらのモデルに追加します。

SOAP 1.1 および SOAP 1.2 は現在サポートされています。

ドキュメントへの影響:

この機能に関連して以下のドキュメントが更新されました。

- 外部 Web サービスを呼び出すプロセスを実証するシナリオ ドキュメントが作成されました。
- ツールセット ヘルプが更新されました。

インライン・コード・ステートメント

インライン コード ステートメントに関して、CA Gen では、ユーザがアクション図にターゲット固有のソース コード（COBOL、C、Java、C#、および/または SQL）を直接追加できる機能がサポートされています。この機能は、外部アクションブロック（EAB）で提供されている機能と類似していますが、インライン コード ステートメントの場合、コードはモデルの外部ではなくモデル内に格納されます。

個々のインライン コード ステートメントに配置できるコードの量をカスタマが制限できるようにするために、ツールセットにはモデル基本設定（[モデル] / [モデル基本設定]）が用意されています。このモデル基本設定では、アクション図内で任意の 1 つのインライン コード ステートメントに許可される最大文字数を設定します。

Visual Studio 2012 サポート

CA Gen は、Visual Studio 2012 を使用して Windows 上で生成された C アプリケーションのコンパイルをサポートします。C# アプリケーション

（ASP.Net Web クライアントおよび .Net サーバ）では、.Net Framework 3.5 と共に Visual Studio 2012 も使用できます。デフォルトでは、アプリケーションは Visual Studio 2010 を使用してコンパイルされます。

%GENxx%Gen¥VS110（32 ビットの場合）および %GENxx%Gen¥VS110¥amd64（64 ビットの場合）のフォルダには、Visual Studio 2012 をサポートするファイル群が含まれています。一連のユーザ エグジット再構築手順は VS110 フォルダ内にあり、必要な Visual Studio 2012 指定ユーザ エグジットの再構築に使用されます。

Visual Studio 2012 を使用する場合は、PATH を変更すること
で、%GENxx%Gen¥VS110 を、他の GEN ディレクトリ %GENxx%Gen の前に追加します。Visual Studio 2012 を使用してビルドし、PATH を変更せずにビルドツール以外でアプリケーションを実行すると、クライアントアプリケーションがクラッシュします。ビルドツールからアプリケーションを実行する場合は、Visual Studio 2012 を使用する必要があることをビルドツールが認識しているので、アプリケーションは実行されます。

注: 現在のコマンドウィンドウセッションで PATH
に %GENxx%Gen¥VS110 を付加することのみが必要であり、システム環境変数には設定しないでください。

Windows 用 GENENV.BAT

CA Gen では、Visual Studio 2010 または 2012 で構築された C アプリケーションの実行時に PATH 環境変数の設定に役立つ `genenv.bat` ファイルが配布されます。`genenv.bat` ファイルは `%GENxx%Gen` フォルダで配布され、次の 2 つのパラメータを受け入れます。

[bits]。32 または 64 （デフォルトは 32）

[vsver]。2010 または 2012 （デフォルトは 2010）

実行後に、正しい Visual Studio 2010 または 2012 パスと共に適切な CA Gen パスが PATH 環境変数に付加されます。

Oracle 12 c のサポート

Oracle 12 c サポートが CA Gen ランタイム アプリケーションに追加されています。

注: プラットフォームに固有のサポートについては、CA Gen の「動作要件」のドキュメントを参照してください。

注: 詳細については、CA Support サイトから入手できる <PTF>.zip ファイルの `CA_Gen_8.5_PTF_Document.pdf` を参照してください。

第 4 章: CA Gen Incremental Release 2

CA Gen Incremental Release 2 では、新機能の追加のみが行われ、以前の PTF は統合されていません。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Web サービス使用 - JAVA のサポート \(P. 45\)](#)

[アクション図のユーザー追加関数 \(P. 46\)](#)

[より大きなモデル ダウンロードをサポートするための CA Gen ツール
セット モデルで許可されている文字列プロパティの数の増加 \(P. 47\)](#)

Web サービス使用 - JAVA のサポート

Incremental Release 2 の Web サービス使用機能は、C と JAVA をサポートします。Web サービス使用の詳細については、[こちら](#) (P. 41)を参照してください。

注: CALL EXTERNAL Web サービス ステートメント (Web サービス使用) をアクション図で使用するには、エンサイクロペディア スキーマ テーブルを少なくとも 8.5 Interim Enhancement 1 (IE 1) 以降にアップグレードする必要があります。

アクション図のユーザ追加関数

CA Gen には、アクション図でユーザ追加関数を使用するメカニズムが追加されています。以下に、BLOB 属性用の事前定義済み関数を示します。

concatblob

2 つの BLOB を連結します。

substrblob

BLOB の一部を分割します。

lengthblob

指定した BLOB の長さを返します。

blobdbcs

BLOB 型を DBCS 型に変換します。

blobmbcs

BLOB 型を MBCS 型に変換します。

blobtex

BLOB 型を TEXT 型に変換します。

dbcsblob

DBCS 型を BLOB 型に変換します。

mbcsblob

MBCS 型を BLOB 型に変換します。

textblob

TEXT 型を BLOB 型に変換します。

注:

- これらの機能はユーザ追加機能として実装されるので、機能が実際に使用される場合にのみ、モデルに追加されます。これらの機能の実装方法の詳細については、記事「*User-Added Functions in Action Diagram*」を参照してください。
- アクション図内の BLOB 機能の詳細については、「ツールセット ヘルプ」を参照してください。

より大きなモデル ダウンロードをサポートするための CA Gen ツール セット モデルで許可されている文字列プロパティの数の増加

既存のモデルが開かれている場合は、モデル内の文字列プロパティ（.DAT ファイル）を新しい形式に変換することで、モデルが最大 50 万個の文字列プロパティをサポートできるようにすることが可能です。.DAT ファイルが変換されると、CA Gen 8.x ツールセットの以前のリリースで新しい形式を読み取ることはできません。これはモデルをアップロードしてから 8.x ツールセットの以前のリリースにダウンロードしたとしても不可能です。その変換を今ここで行うかどうかを決定するように求める確認メッセージが表示されます。.DAT ファイルが変換されると、このメッセージが再び返されることはありません。

以前、ツールセット モデルでは、64K の文字列プロパティしかローカルに格納できませんでした。

注: 詳細については、CA Support サイトから入手できる <PTF>.zip ファイルの WKS85002.pdf を参照してください。

第 5 章: CA Gen Incremental Release 3

CA Gen Incremental Release 3 では、以前の Incremental Release および以前のすべての PTF の機能が統合され、新機能が追加されています。

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Web サービスの作成と CA API Gateway への公開](#) (P. 49)

[Web サービス使用 - C# のサポート](#) (P. 49)

[検索ダイアログ ボックスがモードレスに](#) (P. 50)

[二重引用符をリテラルで使用できない](#) (P. 50)

Web サービスの作成と CA API Gateway への公開

Web サービス インターフェースは、CA Gen Studio を使用して作成され、CA API Gateway に公開されます。他のアプリケーションは、API Gateway を Web サービス インターフェースへのリポジトリとして使用して、これらのサービスを使用します。これらの Web サービスの使用状況をモニタおよび制御するには、CA API Gateway Policy Manager を使用します。

注: CA Gen Studio を使用して Web サービス インターフェースを作成し、CA API Gateway に公開する方法の詳細については、「[Web サービスの作成と CA API Gateway への公開](#)」のシナリオを参照してください。

Web サービス使用 - C# のサポート

Incremental Release 3 の Web サービス使用機能は、C、JAVA、C# をサポートします。Web サービス使用の詳細については、[こちら](#) (P. 41)を参照してください。

注: CALL EXTERNAL Web サービス ステートメント (Web サービス使用) をアクション図で使用するには、エンサイクロペディア スキーマ テーブルを少なくとも 8.5 Interim Enhancement 1 (IE 1) 以降の PTF にアップグレードする必要があります。

検索ダイアログ ボックスがモードレスに

〔Action Diagram search〕ダイアログ ボックスは、Gen 7.5 でモードレスに変更されました。ただし、その他の図（たとえば、ナビゲーション図、データ構造リスト）の検索ダイアログ ボックスは、モールドのままになりました。ユーザ インターフェイスに一貫性を持たせるため、すべての検索ダイアログ ボックスがモードレスに変更されます。

二重引用符をリテラルで使用できない

二重引用符を含むリテラルをウィンドウに追加した場合、二重引用符が表示されません。この機能は実装されませんでした。

第 6 章: CA Gen Incremental Release 4

この Incremental Release 4 には、SQL/MP および SQL/MX をデータベースとして使用する NonStop プラットフォームに対する CA Gen 8.5 のサポートが含まれています。

SQL/MP および SQL/MX データベースのサポート

CA Gen Release 8.5 Incremental Release 4 は、以下のデータベースを使用する NonStop プラットフォームをサポートします。

- SQL/MP
- SQL/MX

SQL/MX をターゲットとするアプリケーションの構築はビルド ツールを使用して実行され、SQL/MP をターゲットとするアプリケーションの構築はセットアップ ツールを使用して実行されます。

注: ビルド ツールの使用の詳細については、CA Gen 8.5 Wiki の「NonStop Implementation Toolset」の「*Using the Build Tool in CA Gen*」を参照してください。 セットアップ ツールの使用の詳細については、CA Gen 8.5 Wiki の「NonStop Implementation Toolset」の「*Using the NonStop Setup Tool*」を参照してください。

第 7 章: z/OS の CA Gen サポートと認定ポリシー

以下では、z/OS の CA Gen サポートと認定ポリシー、およびそれに含まれるコンポーネント（MVS、Comm Server、JES など）と IMS/TM、CICS/TS、Enterprise COBOL、DB2 について定義します。

CA は、（Gen によって明示的にサポートされている動作に対する）Gen の最新バージョンおよび IBM によって現在サポートされているすべてのリリースをサポートします。たとえば、サポートされる IBM z/OS のバージョンが 1.10、1.11、1.12 のときに Gen がリリースされた場合、Gen はその時点でこれらのバージョンをサポートします。その後、Gen リリースのサポート有効期間中に、z/OS 1.13 がリリースされ、z/OS 1.10 のリリースが終了した場合、サポートされるバージョンは 1.11、1.12、1.13 になり、z/OS 1.10 のサポートは廃止されます。

CA は、現在サポートされている Gen リリースが最初に利用可能になった時点でのステータスに関係なく、これらの IBM 製品のサポートされないリリースでの Gen の動作を補助するためのサポート資料を提供しません。したがって、上の例で z/OS 1.10 のサポートが廃止されると、現在の CA Gen リリースはそのリリースの z/OS ではサポートされなくなります。

CA は、これらの製品のメジャーバージョンの変更でのみ認定テストを実施します。たとえば、CICS/TS 認定テストは、リリース 5.1 および 6.1 に対しては実行されますが、5.2 に対しては実施されません。製品変更によって保証される場合、CA は、アドホック方式でバージョン間の追加の認定を実施します。

第 8 章：削除された機能

CA Gen リリース 8.5 では以下の機能がサポートされなくなりました。

- すべての HP-UX PA-RISC サーバ
- 端末サービス付き Windows Server 2003
- Windows XP、Windows Server 2003 および Vista
- AIX、Solaris、および Linux での 32 ビット アプリケーションのサポートは、64 ビットのサポートに置き換えられました。
- Web 生成の生成アプリケーションでは、Internet Explorer v5、Internet Explorer v6 および Firefox ブラウザがサポートされなくなりました。
- ASP.NET 生成アプリケーションでは、Internet Explorer v6 ブラウザがサポートされなくなりました。
- CA Gen リリース 8.5 には、サポートされた目標 DBMS として Datacom が含まれなくなりました。

第 9 章：廃止された機能

CICS ソケット サーバリスナ (プログラム TISRVLIS) は、CA Gen リリース 8.5 の後続リリースではサポートされなくなります。CICS マルチ ソケット サーバリスナ (プログラム TISRVMSL) は交換用製品です。

Gen Studio の Web Service Access オプションは CA Gen 8.5 リリースでサポートされますが、CA Gen の後続リリースでは使用できなくなります。

第 10 章: Installation Considerations (インストールに関する考慮事項)

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Windows インストール](#) (P. 59)

[UNIX インストール](#) (P. 62)

[Linux に対するマウント命令](#) (P. 63)

[Solaris に対するマウント命令](#) (P. 63)

[AIX に対するマウント命令](#) (P. 64)

[HP Itanium に対するマウント命令](#) (P. 65)

[旧バージョンのアンインストール](#) (P. 66)

[インストールモード](#) (P. 66)

[z/OS インストール](#) (P. 67)

Windows インストール

アップグレード

Windows システム上の CA Gen リリース 8.5 の場合、CA Gen 8.0 をアンインストールする必要はありません。CA Gen リリース 8.5 は、同じシステム上の別のディレクトリで CA Gen 8.0 と並行して実行できます。

注: 詳細については、「分散システム インストール ガイド」を参照してください。

CA Gen に含まれるユーザ エグジットは、新しいリリースまたはサービスパックのインストール中に変更される場合があります。

重要: カスタマイズしたユーザ エグジットは、インストールプロセスを開始する前にバックアップを取ってください。

インストールが完了したら、変更されたユーザ エグジットがインストールによって更新されているかどうかを確認します。インストールによってユーザ エグジットが更新された場合は、新しいバージョンのユーザ エグジットに変更を適用し、再構築する必要があります。更新されたユーザ エグジットを単に旧バージョンと置き換えることはしないでください。

サポートされないオペレーティング システム

CA Gen リリース 8.5 は、「削除された機能」で説明されているように、Windows Vista 以前のオペレーティング システムをサポートしません。サポートされていないオペレーティング システムでインストールを試みると、CA Gen インストールで、サポートされていない環境であることを通知するメッセージが表示されます。

[取消] をクリックしてインストールを中止します。ただし、[OK] をクリックすると、環境がサポートされていなくてもインストールプロセスが続行されます。

旧バージョンのアンインストール

重要: COOL:Gen および Advantage Gen の全バージョン、および AllFusion Gen の 6.5、7 および 7.5 をアンインストールする必要があります。

CA Gen のいずれかのバージョンをアンインストールする場合は、ソフトウェアをアンインストールする前に、カスタマイズしたファイルをバックアップまたはアーカイブしてください。CA Gen リリース 8.5 をインストールした後に、アーカイブされたカスタマイズ済みファイルを CA Gen リリース 8.5 バージョンのファイルにマイグレートしてください。

注: CA Gen の旧バージョンをアンインストールすると、旧バージョンに依存する生成アプリケーションは実行されなくなります。

CA Gen のアンインストール中に、CA Gen と共有しているファイルが他のプログラムで使用されていることを示すメッセージが表示される場合があります。このメッセージではプログラムが特定され、以下のオプションが提供されます。

- 競合を無視して、CA Gen のアンインストールを続行する
- 競合を引き起こすプログラムを停止して、アンインストールプロセスを再試行する
- アンインストール プロセスを中止する

競合を引き起こしているファイルはシステム ファイルで、インストールプロセスによって削除されることはないため、競合を無視してアンインストールプロセスを続行しても問題ありません。また、競合を引き起こしているプログラムに関連付けられている作業を保存し、アンインストールプロセスを再試行しても問題ありません。

再起動

Windows 7 では、ツールセットを初めて開始しようとする、名前の正確な入力と再入力を確認するメッセージが表示される場合があります。Windows を再起動すると、インストール中に変更された環境がアクティブ化され、ツールセットが起動します。

CA Gen をアンインストールして別のディレクトリにこれをインストールする場合、Windows の再起動によって、[スタート] メニュー オプションが正しく設定されます。

アンチウイルス ヒューリスティックス

アンチウイルス プログラムによって、Windows への CA Gen のインストール中に、1 つ以上の CA Gen DLL モジュール（特に、IEFCB85n.dll）が隔離される場合があります。これらの製品は、ヒューリスティックスを使用して潜在的なウイルスを特定しようとしませんが、それによってこれらのモジュールが誤検知され隔離されてしまうことがあります。

この問題を回避する方法は 2 つあります。1 つはインストールプロセス中にヒューリスティックスを無効にすることで、もう 1 つは、アンチウイルス ソフトウェア プロバイダが提供するツールを使用して、影響を受けたモジュールを隔離から外すことです。ただし、隔離からモジュールを外すと、後で CA Gen のこのバージョンをアンインストールすることが難しくなる場合があります。

UNIX インストール

アップグレード

UNIX システム上の CA Gen リリース 8.5 の場合、CA Gen 8.0 をアンインストールする必要はありません。CA Gen リリース 8.5 は、同じシステム上の別のディレクトリで CA Gen 8.0 と並行して実行できます。

CA Gen コンポーネントのインストールは命名されたインスタンスに関連付けられるので、旧リリースの CA Gen コンポーネントがすでにインストールされている UNIX システムに CA Gen リリース 8.5 をインストールする場合は、別の名前のインスタンスを使用する必要があります。新しいインストールで同じインスタンスを使用すると、警告画面が表示され、インストールをやり直して別の名前を付けるように求められます。無名のインスタンスで CA Gen リリース 8.5 のインストールをしようとすると、CA Gen の旧バージョンをインストールする際にインスタンスに名前を付けていなかったときと同様に、警告画面が表示される場合があります。

CA Gen リリース 8.5 を CA Gen の旧バージョンと同じディレクトリにインストールし、そのディレクトリが空でない場合、インストールプロセスによって、旧バージョンで変更済みの構成ファイルの名前が変更（および保持）されます。インストール後、以前のリリースの構成ファイルをカスタマイズするために行った作業をマイグレートする必要があります。

CA Gen に含まれるユーザ エグジットは、新しいリリースまたはサービスパックのインストール中に変更される場合があります。

重要: カスタマイズしたユーザ エグジットは、インストールプロセスを開始する前にバックアップを取ってください。

インストールが完了したら、変更されたユーザ エグジットがインストールによって更新されているかどうかを確認します。インストールによってユーザ エグジットが更新された場合は、新しいバージョンのユーザ エグジットに変更を適用し、再構築する必要があります。更新されたユーザ エグジットを単に旧バージョンと置き換えることはしないでください。

Linux に対するマウント命令

Linux 用の CA Gen リリース 8.5 は、ISO ファイルとして配布されるようになりました。以下の命令を使用して ISO ファイルをマウントします。

```
# mkdir -p {temporary mount location}
# mount -o loop {iso file} {temporary mount location}
```

例

```
# mkdir -p /mnt/iso-disk
# mount -o loop /tmp/CAGen85.Linux.iso /mnt/iso-disk
```

Solaris に対するマウント命令

Solaris 用の CA Gen リリース 8.5 は、ISO ファイルとして配布されるようになりました。以下の命令を使用して ISO ファイルをマウントします。

```
# mkdir -p {temporary mount location}
# lofiadm -a {iso file} (lofiadm creates a mountable device)
# mount -f hsfs -o ro {device} {temporary mount location}
```

例

```
# mkdir -p /mnt/iso-disk
# lofiadm -a /tmp/CAGen85.Solaris.iso
# mount -f hsfs -o ro /dev/lofi/1 /mnt/iso-disk
```

AIX に対するマウント命令

AIX 用の CA Gen リリース 8.5 は、ISO ファイルとして配布されるようになりました。以下の命令を使用して ISO ファイルをマウントします。

次の手順に従ってください:

1. ISO イメージのサイズを取得します。

例

```
ls -la /tmp/CAGen85.AIX.iso  
-rwxr-xr-x  1 root    system   253929472 Dec 26 16:05 /tmp/CAGen85.AIX.iso
```

2. イメージに十分なスペースを提供する **128 MB** の最も近い倍数を特定します。

例では、イメージはおよそ **254 MB** なのでイメージサイズとして **256 MB** を使用します。

3. このサイズの論理ボリュームを作成します。物理ボリュームに十分なスペースがあることを確認します。

たとえば **hdisk0**。

```
# mklv -y cdlv -s n -L /dev/cdlv rootvg 256M hdisk0
```

4. コマンドが失敗する場合は、**128** の倍数でボリューム サイズを増やします。

5. 疑似デバイスを作成するには、**dd** コマンドを使用します。区分に疑似デバイス用の十分なスペースがあることを確認します。

以下のコマンド例では、疑似デバイスは **/dev/cdlv** です。

```
# dd if=/tmp/CAGen85.AIX.iso of=/dev/cdlv
```

注: このコマンドは時間がかかる可能性があり、**2** つの **dd** プロセスを作成します。

6. **CD-ROM** のようなデバイスを AIX にマウントします。マウントポイントが存在することを確認します。

```
# mkdir -p /mnt/iso-disk  
# mount -v cdrfs -o ro /dev/cdlv /mnt/iso-disk
```


HP Itanium に対するマウント命令

HP Itanium 用の CA Gen リリース 8.5 は、ISO ファイルとして配布されるようになりました。以下の命令を使用して ISO ファイルをマウントします。

次の手順に従ってください:

1. HP ソフトウェア Web サイトから無料ソフトウェア デポ ISOIMAGE-ENH をダウンロードします。swinstall でソフトウェア デポをインストールします。

前述のパッケージには、CDFS 形式に対応するようにマウント コマンドおよびマウント解除コマンドをパッチするための 4 つのパッチが含まれます。以下のコマンドを入力してデポをインストールします。

2. ISO イメージをマウントする前に、fspd という動的ロード可能カーネルモジュール (DLKM) をロードします。デポのインストール後に fspd モジュールをロードおよびアンロードするには、以下のコマンドを使用します。

- ロード

```
kcmodule fspd=loaded
```

- アンロード

```
kcmodule fspd=unused
```

3. 以下のように ISO イメージをマウントします。

```
mount -F cdfs /tmp/CAGen85.HPIA64.iso /tmp_mnt
```

4. マウント オプションを表示するには、以下のコマンドを入力します。

```
mount -v | grep /tmp_mnt
/dev/fspd1 on /tmp_mnt type cdfs imagepath=/tmp/CAGen85.HPIA64.iso inode=46218
residing on blockdevice 0x40000003, ro,rr,dev=60000001 on Thu Jan 3 15:12:41 2013
```

旧バージョンのアンインストール

CA Gen リリース 8.5 を新しい場所にインストールしてインスタンス名を付ける場合は、CA Gen の旧リリースをアンインストールする必要はありません。同じ場所にインストールする場合、または同じインスタンス名を使用する場合は、古いリリースをアンインストールする必要があります。

アンインストールプロセスでは、構成ファイルとみなされたファイルは、その構成ファイルが変更されているかいないかにかかわらず、削除されません。元のインストールの一部として配布されたその他のファイルはすべて削除されます。変更されたファイルであっても同様です。アンインストールプロセスでは、CA Gen のインストールツリーのユーザによって追加されたファイルおよびディレクトリは削除されません。

PTF が UNIX プラットフォーム上の CA Gen IT または CSE に適用されている場合、アンインストールプロセスでは、PTF のバックアップおよびスクリプトはそのまま残されます。これらのバックアップおよびスクリプトは、手動で削除する必要があります。

インストール モード

「分散システム インストール ガイド」には、USD (Unicenter Software Delivery) を使用して UNIX および Linux 製品をインストールする方法が記載されています。USD では、インストール時のダイアログボックスが、グラフィカルユーザインターフェース (GUI) モードまたは VT100 モード (文字端末インターフェース) で表示されます。

CA Gen リリース 8.5 では、文字端末インターフェースのインストールに `curses` ライブラリを使用します。このライブラリでは、カーソルアドレッシングをサポートする端末エミュレーションが必要です。

Microsoft Telnet ターミナルエミュレータを使用している場合は、`-t vt100` を追加して、VT100 モードを有効にする必要があります。

一部のシステムでは、vt100 モードの Microsoft Telnet で、線画文字の代わりに、`l`、`m`、`k`、および `q` の文字が表示されます。このような場合は、`xterm` モードでの Putty など、別のターミナルエミュレータの使用を検討してください。

環境変数 `TERM` は、使用している端末またはターミナルエミュレータの機能に応じて、線画文字が正しく表示されるように設定する必要があります。

z/OS インストール

アップグレード

CA Gen に含まれるユーザ エグジットは、新しいリリースまたはサービスパックのインストール中に変更される場合があります。

重要: インストールプロセスを開始する前に、カスタマイズしたユーザ エグジットはバックアップを取ってください。

インストールが完了したら、変更されたユーザ エグジットがインストールによって更新されているかどうかを確認します。 インストールによってユーザ エグジットが更新された場合は、新しいバージョンのユーザ エグジットに変更を適用し、再構築する必要があります。 更新されたユーザ エグジットを単に旧バージョンと置き換えることはしないでください。

重要: z/OS アプリケーション用に提供されたユーザ エグジットも変更できますが、CA Gen リリース 8.5 をインストールおよびデプロイするために使用するライブラリの中に、カスタマイズしたバージョンのエグジットを入れないでください。 これらのデータセットは CSM および SMP/E の管理下にあり、メンテナンスを適用すると変更が上書きされます。

SMP/E の使用

CA Gen z/OS 製品のインストールは、CA Gen 8.0 から変更されました。 ソフトウェアは PAX-enhanced ESD ファイルでダウンロードが可能です。また、CA CSM または SAMPJCL のいずれかによって SMP/E を使用してインストールされるように再構成されました。

インストールプロセスは、CA CSM を使用する場合は特に、単純でわかりやすいように設計されていますが、以前のリリースで提供されていたものとは異なります。 たとえば、データセットブロック サイズは 32k になりました（可能な場合）。データセットサフィックスも CA 標準に合わせて変更されました。このサフィックスは変更できません。 ISPTLIB 連結に CA Gen ライブラリは存在しなくなりました。その代わりに、BLKSIZE 27920 の一時テーブルライブラリがインストール中に割り当てられます。これらの変更により、ユーザのサイトで既存の CA Gen ログオンプロシージャが影響を受ける可能性があります。 インストールを開始する前に「CA Gen z/OS インストール ガイド」を読むこと、および SMP/E に精通しているユーザがインストールプロセスに参加することを強くお勧めします。

CA CSM を使用したホスト エンサイクロペディア構成

CA CSM による構成には、ホスト エンサイクロペディア FMID が CA CSM によってインストールおよび展開されている必要があります。CA Gen ホスト エンサイクロペディア 8.5 の展開を作成するための製品を選択する場合、ランタイム ロード ライブラリ (CEHBPLD1) の展開バージョンも作成されるようにするために、CA Gen CICS ランタイム 8.5 または CA Gen IMS ランタイム 8.5 のいずれかのランタイム製品が必要です。

すべての CA Gen 8.5 製品を展開できますが、現在 CA Gen ホスト エンサイクロペディア 8.5 製品のみが、CA CSM によって設定可能です。CA Gen は、CSM 5.1 を使用してのみ、展開および設定できます。

インストール、展開および構成については「*z/OS インストールガイド*」に記載されています。

ホスト エンサイクロペディアの上書き式のアップグレード

CA Gen リリース 8.5 用のスキーマには、AllFusion Gen 7.6 リリースよりも多くの行があります。そのため、AllFusion Gen 7.6 でスキーマテーブルスペースの 2 次割り当てをゼロに設定していた場合に、ホスト エンサイクロペディアで上書き式のアップグレードを行うと、必要なテーブルスペースよりも既存のスペースが小さいために、スキーマロードジョブ CEJOB05 で DB2 エラーが発生する場合があります。

この問題を修正するには、上書き式のアップグレードを行う前に、以下の ALTER TABLESPACE コマンドを使用して、SPRP、SASC および SOBJ テーブルスペースのサイズを大きくします。

```
ALTER TABLESPACE schemadb.SASC PRIQTY 4800;  
ALTER TABLESPACE schemadb.SOBJ PRIQTY 2400;  
ALTER TABLESPACE schemadb.SPRP PRIQTY 4800;
```

ユーザ EXIT

Enterprise COBOL 5 を使用して CA Gen ユーザ エグジットをコンパイルできるようにするために、新しい Samplib メンバ MK5EXITS が提供されています。

MKCRUN プロシージャを使用して CA Gen アプリケーションで使用されるコードページをカスタマイズする際に TIRXINFO ユーザ エグジットを変更した場合は、結果として生じる TIRXINFZ DLL を CICS または IMS（CA Gen アプリケーションが実行される領域）に展開する必要があります。

第 11 章：一般的な注意事項

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[はじめに](#) (P. 71)
[アクセシビリティ](#) (P. 72)
[ASP.NET](#) (P. 72)
[非同期サポート](#) (P. 73)
[CSE の構成](#) (P. 74)
[各国語サポート](#) (P. 74)
[カスタム・プロキシ](#) (P. 75)
[ランタイム](#) (P. 76)
[Web 生成](#) (P. 79)
[ツールセット](#) (P. 80)
[アプリケーションのマイグレート](#) (P. 84)

はじめに

注：CA Gen ソフトウェアでは、MVS、メインフレームおよび z/OS という用語は同じ意味で使用されます。

テーブル、列、索引および制約に対して、より長い総称名が許容されるようにテクニカル設計が変更されました。モデルが目標 DBMS に対して変換または特化されなかった場合、モデルは DDL のインストールに失敗する場合があります。従って、DDL を生成およびインストールする前に、目標 DBMS に対してテクニカル設計を特化することをお勧めします。

一般に、エンサイクロペディア API 関数のパフォーマンスは、対応するツールセット自動化 OLE 関数よりも優れています。

アクセシビリティ

ユーザのアクセシビリティ操作性に影響する可能性があるとして識別されたあらゆる問題をテストし修正するために、多くの CA Gen コンポーネントが VPAT (Voluntary Product Accessibility Template) プログラムを受けています。CA アクセシビリティ ステートメントを確認するには、CA サポート Web ページ (<http://ca.com/jp/support>) を参照してください。

CA Gen VPAT へのアクセスを必要とする場合は、アカウント マネージャに連絡してください。

ASP.NET

CA Gen で ASP.NET を使用する場合、エクスポート ビュー、スクリプト インジェクション検査およびサードパーティ Web コントロールで作業する際の考慮事項があります。

エクスポート ビュー

ASP.NET では、GUI クライアントよりも頻繁にページのエクスポート ビューが更新されます。ウィンドウ イベントで ASP.NET が GUI クライアント用のコードを生成すると、メッセージボックスが起動されます。そのウィンドウ イベントで、メイン ウィンドウで表示されているエクスポート ビューが SET ステートメントなどによって変更された場合、メイン ウィンドウには引き続きエクスポート ビューの元の値が表示されます。ASP.NET では、主ウィンドウのビューが即座に更新されます。

スクリプト インジェクション検査

「より小さい」または「より大きい」を表す特殊文字の < または > を含む HTML コントロールは、スクリプト インジェクション アタックと分類されます。このリクエスト検査をオフにするには、web.config ファイルに以下の行を追加します。

```
<pages validateRequest="false" />
```


web.config ファイル内の以下の既存の行の間に追加します。

```
<configuration>
  <system.web>

  </system.web>
</configuration>
```

サード パーティ製の Web コントロールの特性

CA Gen で使用するサード パーティ製の Web コントロールの特性は、ASP.NET のセッション ステート メカニズムを通して保存および転送されます。ブラウザ制御式履歴処理をサポートするために、CA Gen ではこのメカニズムを使用する必要があります。

一部のサードパーティ製のコントロールで、表示の微妙な差に気付く場合があります。特に、幅と高さの変更に関する違いです。たとえば、Microsoft のリスト Web コントロールで、通常の Visual Studio .NET で開発された Web アプリケーションを実行して行の特性を変更すると、コントロールの ViewState によって高さ特性が自動的に変更されます。

SessionState 値が ViewState 特性を上書きするのを防ぐには、行の特性を変更するときに手動で高さを変更する必要があります。行の値が変更されても高さの値は変わらないため、行の値が変更されていないように見えます。この場合、CA Gen アプリケーション オブジェクトの SetHeight メソッドを使用して、高さ特性を正しく更新する必要があります。

注: このタイプの違いが見られるのは、ある特性が ViewState を通して別の特性の変更を強制する場合だけです。

非同期サポート

注: CA Gen がサポートする非同期フローを識別するには、CA Gen の「動作要件」の「非同期サポート」を参照してください。

CSE の構成

CSE エンサイクロペディア サーバ ソフトウェアをインストールした後は、必ず `cse_config` を実行してください。同じリリースのソフトウェアを再インストールした場合も同様です。再インストールは更新であると考えてください。最小の構成要件は、メッセージディスパッチャ INI ファイルを作成することです。`cse_config` は `cse¥bin` ディレクトリに適切な `csedb##.dll` をコピーします。このディレクトリは、PATH 内にすでに含まれています。

Windows プラットフォームのマシンに初めて CSE サーバをインストールした場合は、`cse_config` の実行後にリポートしてください。

各国語サポート

CA Gen リリース 8.5 の各国語サポート (NLS) に関する全般的な考慮事項には、全角文字および IBM WebSphere を使用する際の考慮事項が含まれます。

各国語および全角文字についての考慮事項

CA Gen で各国語サポート (NLS) および全角文字を使用する場合は、以下の情報および制限を考慮してください。

- マニュアルで使用される頭字語の *CJK* は、Chinese (中国語)、Japanese (日本語)、Korean (韓国語) を意味します。
- CA Gen ソフトウェアでは、ツールセットまたは CSE から z/OS プラットフォームへのクロス生成で、全角文字を使用する言語または右から左に表記される言語 (アラビア語やヘブライ語など) はサポートされていません。
- CA Gen ツールセットは Unicode に対応していないため、ローカル文字マッピング内の文字のみを表示できます。
- Web 生成アプリケーションでは、入力フィールドの MIXED および DBCS のドメインタイプ特性は、GUI アプリケーションのようには適用されません。

CA Gen では、以下のエンティティ内に NLS 文字を使用することはサポートされていません。

- [言語] ダイアログ ボックスの言語名、メッセージテーブル名、およびトランザクション テーブル名
- パス名
- ロード モジュール名
- モデル名
- トランザクション名
- ビルド ツールの [アセンブル] ダイアログ ボックス (GUI アプリケーション用)
- コンポーネント アーキテクチャ図の名前
- スコーピング サブジェクト エリア名
- Web サービス定義名

カスタム・プロキシ

カスタム プロキシに関する全般的な考慮事項には以下が含まれます。

- 日付、時刻およびタイムスタンプをリテラル値にマップする。
- リテラル値にマップされたインポート ビュー属性を公開する。

日付、時刻およびタイムスタンプのリテラル値へのマッピング

日付、時刻、およびタイムスタンプの属性は、Gen Studio のリテラル値にマップできます。Gen Studio は、これらの属性に割り当てられたリテラルに対して適切な長さの数値のみを受け付けます。ただし、値の範囲は制限しません。たとえば、Gen Studio は、「YYYY」が4桁の年、「MM」が月、「DD」が日を表す日付形式「YYYYMMDD」のみを受け付けます。リテラル値「01234567」が日付属性にマップされると、Gen Studio はこれを受け付けます。ただし、生成されたプロキシコードを実行すると、指定された値が内部ビュー構造に割り当てられるときに例外がスローされます。クライアントアプリケーションの予期しない終了を回避するために、これらの属性タイプにリテラル値をマップする際は特に注意が必要です。

Gen Studio は、各属性タイプに対する以下の形式を受け付けます。

- 日付：YYYYMMDD
- 時刻：HHMMSS
- タイム・スタンプ：YYYYMMDDHHMMSSssssss

リテラル値にマップされたインポートビュー属性の公開

現在のカスタムプロキシインプリメンテーションでは、プロキシコンシューマへのリテラルにマップされたインポートビュー属性が公開されます。これは意図された動作ではなく、将来のリリースで変更されます。そのため、プロキシを使用するクライアントアプリケーションではこの機能を利用しないでください。

ランタイム

これ以降のセクションでは、ランタイムに関する全般的な考慮事項について説明します。

Visual Studio 2012

生成アプリケーションが Visual Studio 2012 で構築される場合、正しい CA Gen ランタイム ダイナミック リンク ライブラリを使用するために、以下のパスを PATH 環境変数の先頭に付ける必要があります。

```
%GENxx%Gen¥VS110
```

以下のコマンドを PATH 環境変数の設定に使用する必要があります。

```
PATH=%GENxx%Gen¥VS110;%PATH%
```

Visual Studio 2012 コンパイラで構築されたアプリケーションを起動する場合に、現在のコマンドウィンドウで、上記のように PATH 環境変数にのみ付加する必要があります。PATH システム環境変数にはこの変更を行わないでください。

64 ビットの C ブロック モードおよびサーバのサポート

生成された Windows ブロック モードアプリケーションまたはサーバアプリケーションが 64 ビットで構築される場合、正しい CA Gen ランタイム ダイナミック リンク ライブラリを使用するために、以下のパスを PATH 環境変数の先頭に付ける必要があります。

```
%GENxx%Gen¥VS110¥amd64
```

以下のコマンドを PATH 環境変数の設定に使用する必要があります。

```
PATH=%GENxx%Gen¥VS110¥amd64;%PATH%
```

64 ビット イメージのアプリケーションを起動する場合に、現在のコマンドウィンドウで、上記のように PATH 環境変数にのみ付加する必要があります。PATH システム環境変数にはこの変更を行わないでください。

注: xx は CA Gen の現在のリリースを示します。

64 ビット Windows ユーザ エグジットの再構築

Windows で 64 ビット ランタイムを使用している間に、すべてのユーザ エグジットをバッチ ファイルを使用して再構築し、ファイルを %GENxx%Gen¥VS110¥amd64 フォルダに格納する必要があります。ユーザ エグジットを同じフォルダから実行する必要があります。生成されたユーザ エグジット ダイナミック リンク ライブラリは同じフォルダに配置されます。

注: xx は現在のリリース番号を示します。

セキュリティトークン ユーザ エグジット -- maximumLength パラメータ

メッセージが 32K の制限を超えると、セキュリティ トークン ユーザ エグジットは最大長 16777215 バイトを考慮して長さを計算し、この結果をセキュリティ トークン用の生成コードが許容している最大長 32768 バイトに切り捨てます。

32K の制限を超えない場合、最大長は 31900 バイトのまま変わりません。

日付妥当性検査

式で日付による期間を使用するとき、期間計算の結果は、月、日および年の組み合わせとして有効な日付である必要があります。

有効な日付を提供しないと、予期しない結果が生じる場合があります。

例:

00000000

すべてゼロなのは有効な日付です。

01010001

月、日および年がそれぞれ 1 に設定されている日付は有効です。

10002006

日の値がゼロの日付は無効です。

00012006

月の値がゼロの日付は無効です。

Web 生成

以下のセクションでは、Web 生成および ASP.NET に関する全般的な考慮事項について説明します。

ダイアログ ボックスの終了

ブラウザ ウィンドウの右上角にあるシステムの [閉じる] アイコンを使用してダイアログ ボックスを終了した場合、close イベントは生成されません。CA Gen で生成された「×」ボタンか、Close イベントをトリガするように設計されたコントロール（プッシュ ボタンなど）を使用してください。

フォーカス イベント

特定の状況で、GainFocus イベントおよび LoseFocus イベントの ASP.NET での動作が、Web 生成クライアントおよび GUI クライアントでの動作と若干異なる場合があります。これは、これらの環境のアーキテクチャの違いによるものです。この動作の相違がないと、ASP.NET アプリケーションが無限ループに入る可能性があります。

たとえば、ページ上の First コントロールに GainFocus イベントと LoseFocus イベントが関連付けられており、ページ上の他のいかなるコントロールでもフォーカスが取得されない場所（他のコントロールが存在しないウィンドウやブラウザのアドレス ボックスなど）でマウスがクリックされると、LoseFocus イベントが起動されます。ページで再作図が行われると、フォーカスが First コントロールに戻ります。GainFocus イベントは起動しません（元のフォーカスが First コントロールにあり、さらにこれが、次にフォーカスを取得するコントロールでもあるため）。

別のマウス クリックが発生すると LoseFocus イベントは発生しません（LoseFocus が最後に処理されたイベントなので、重複イベントになるため）。この場合、アドレス ボックス内でマウスをクリックすると、フォーカスはアドレス ボックス内にとどまります。イベント処理がサーバに送信されないため、ウィンドウを再作図してフォーカスを First コントロールにリセットする理由がないからです。

モーダル ダイアログ ボックスおよびモードレス ダイアログ ボックス

CA Gen リリース 8.5 のモードレス ダイアログ ボックスの現在の Web 生成インプリメンテーションは、Microsoft の Internet Explorer 9 ではサポートされなくなりました。将来的に見て、モーダルおよびモードレス ダイアログ ボックスの Web 生成インプリメンテーションおよび ASP.NET インプリメンテーションは、Microsoft の Internet Explorer 10 ではサポートされません。

モーダル ダイアログ ボックスおよびモードレス ダイアログ ボックスは、ポップアップ ダイアログ ボックスおよびメッセージ ボックスにのみ使用されるので、この問題の影響は多少限定されています。Internet Explorer の両バージョンに関するこの問題を解決するための変更を実施中です。

Internet Explorer 8 でアプリケーションのポップアップ ダイアログ ボックスまたはメッセージ ボックスを使用している場合は、これらの変更が実用化され、ソリューションが提供されるまで Internet Explorer 8 の使用を続けてください。修正が利用可能になり次第お知らせします。

ツールセット

下記のセクションでは、ツールセットに関する全般的な考慮事項について説明します。

シームレスなアップロードおよびダウンロード

CJK（中国語、日本語、韓国語）Windows オペレーティング システム上で実行され、IBM Personal Communications（PC3270）製品を使用するツールセットにシームレスなアップロードまたはダウンロードを実行すると、CA Gen では以下のメッセージが表示されます。

「重大エラーが起きました。」

これは、IBM ソフトウェアの問題であり、IBMLINK Record 36052, 7TD, 000 として問題が公開されています。回避策として、[一般] タブを使用して、デフォルトのパッケージ サイズ オプションを 8000 から 2000 に変更します。[一般] タブを開くには、[編集]、[詳細設定]、[転送] メニュー オプションを選択してください。

LAN からの CA Gen コンポーネントの実行

CA Gen では、ツールセットやビルド ツールなどのコンポーネントをセントラル サーバから実行することはサポートされていません。

HTML コントロールおよび HTML テキスト オブジェクト

HTML コントロールまたは HTML テキスト オブジェクトが HTML モードおよび ASP.NET モードで選択されている場合、ナビゲーション図の詳細メニューで **Disabled By** メニュー項目が無効になります。[使用禁止状況] ダイアログ ボックスを使用して HTML コントロールまたは HTML テキスト オブジェクトを無効にすることはできません。

全角文字列ルーチン

全角文字列で SUBSTR は使用しないでください。SUBSTRDBCS を使用します。

Java で SUBSTRMIX は使用しないでください。Java は Unicode であるため、SUBSTR または SUBSTRDBCS を使用します。SUBSTRMIX では、Unicode で奇数結果を返すバイト数がカウントされます。

.NET Framework 3.5

.NET Framework 3.5 は .NET Framework の旧リリースと同時にツールセットワークステーションにインストールできます。ただし、CA Gen リリース 8.5 では .NET Framework 3.5 のみをサポートします。

重要: Infragistics コントロール 1.1 バージョンはアンインストールする必要があります。

Web コントロールおよび ASP.NET

CA Gen では、.NET System.Web.UI.WebControls 由来の Web コントロールのみをサポートします。サードパーティ .NET Web コントロールが Visual Studio 2010 での設計時に使用できない場合、Visual Studio 2010 で設計時に使用できる WebControl クラスはホスト内では動作しません。

注: CA Gen は市販されているすべての ActiveX コントロールでテストされたわけではありません。そのため、それらがすべて CA Gen で動作するとは限りません。

タブ コントロール

GUI アプリケーションのタブ コントロールのサポートは、FarPoint Technologies Inc. が提供する Tab Pro コントロールに限られています。このコントロールは販売元によるサポートが終了していますが、CA Gen の本バージョンでは引き続き動作します。

Treeview Web コントロール

Microsoft の Internet Explorer Web Control Treeview には、設計時に INDENT などの特性のサブセットへの変更を反映する問題があります。これは Treeview コントロールに関する問題です。Visual Studio でも、サンプルアプリケーションの使用時に同じ状況が発生する場合があります。

小数フィールドの編集パターン

編集フィールドに移動された数値の小数部は、クライアント タイプに応じて表示動作が異なる場合があります。

GUI または ASP.NET クライアントでは、小数が含まれないか、または小数の数が少ない編集パターンを持つフィールドに小数が移動されると、表示されない小数が切り捨てられます。

たとえば、156.123 を 999.99 の編集パターンでフィールドに移動すると、画面に表示される値は 156.12 になります。その数を 999.999 の編集パターンでフィールドに戻すと、表示される値は 156.120 になり、右端の数字が切り捨てられます。Web 生成クライアントでは 156.123 として値が表示されます。GUI と ASP.NET クライアントの動作は将来のリリースで修正される予定です。

CEM(Common Edit Modification)

CEM がオフの状態では、プッシュ ボタンを各種モードでツールバーに追加し、CEM をオンにした後にプッシュ ボタンをさらに追加した場合、新しいプッシュ ボタンが元のプッシュ ボタンの後ろに隠れている場合があります。この問題を回避するには、各プッシュ ボタンをツールバーの外側に出してから、もう一度ツールバーに戻します。

注: すべてのプッシュ ボタンを外に出してから戻してください。すべてを移動しないと問題は解決しません。

オンライン ヘルプ

ツールセットの一部のダイアログ ボックスで、ヘルプ情報が正しくなかったり欠落していたりする場合があります。これらの問題は将来のリリースで解決される予定です。さまざまなトピックに関する有益な情報を検索するには、[ヘルプ] - [ヘルプ トピック] - [索引] を使用するか、[ヘルプ] - [ヘルプ トピック] - [検索] を使用してください。

アプリケーションのマイグレート

Windows C アプリケーションのマイグレート

Windows ユーザは、CA Gen の最新リリースにマイグレートする場合、CA Gen の以前のバージョンで構築された外部アクションブロックおよび生成アプリケーションをすべて再構築（再コンパイルおよび再リンク）する必要があります。CA Gen ランタイムの最新リリースは Microsoft コンパイラの新バージョンを使用してコンパイルされるため、生成コードおよび EAB はコンパイラの同じバージョンで再コンパイルされる必要があります。いずれかのユーザ エグジットが以前のリリースの CA Gen で変更されている場合は、これらの変更を最新の CA Gen ユーザ エグジットとマージすると共に、再構築する必要があります。CA Gen ビルドツールを使用して MSI ファイル内のアプリケーションをアセンブルする場合は、これらのアプリケーションの再アセンブルも行う必要があります。

UNIX/Linux C アプリケーションのマイグレート

UNIX/Linux ユーザは、CA Gen の最新リリースにマイグレートする場合、CA Gen の以前のバージョンで構築された外部アクションブロックおよび生成アプリケーションをすべて再構築（再コンパイルおよび再リンク）する必要があります。コンパイラの新バージョンはすべての目標システムで使用されています。HP-UX Itanium をターゲットにする CA Gen コンポーネントは、32 ビットから 64 ビットにマイグレートしました。HP-UX Itanium をターゲットにするアプリケーションは、再生成、再コンパイルおよび再リンクが必要です。いずれかのユーザ エグジットが以前のリリースの CA Gen で変更されている場合は、これらの変更を最新の CA Gen ユーザ エグジットとマージすると共に、再構築する必要があります。

z/OS アプリケーションのマイグレート

AllFusion Gen 7.6 および CA Gen リリース 8.0 でビルドされたアプリケーションを CA Gen リリース 8.5 環境に移行する場合、以下の z/OS ランタイム機能を再生成または再インストールする必要はありません。ただし、ランタイム DLL を変更する PTF の場合のように、機能自体のコード変更以外の理由で、再生成または再インストールが必要になる場合があります。そのような変更は必要に応じて審査されてから公開されます。

ファンクション名	タイプ	説明
CONCAT	文字列	2 つの文字列を連結します。
CONCATMIXED	文字列	2 つのテキスト文字列または全半角文字列を連結します。
CONCATDBCS	文字列	2 つの全角文字列を連結します。
CYYDATE	数値	日付を 4.0 より前の CYYMMDD 形式に変換します。入力の日付です。
CYYNUM	数値	数値を 4.0 より前の CYYMMDD 形式に変換します。入力は YYYYMMDD の形式の数値です。
DATEDAYS	数値	0000 年 12 月 31 日からの日数を表す正の整数を、IEF 日付値に変換します。
DATEJUL	数値	有効なユリウス日 (YYYYDDD) を、IEF 日付値に変換します。
DATENUM	文字列	数値を、IEF 日付値に変換します。入力は YYYYMMDD の形式の数値です。
DATETEXT	文字列	有効な文字列日付を、IEF 日付値に変換します。入力形式は、YYYY-MM-DD6、MM/DD/YYYY、DD.MM.YYYY および YYYYNNNN です。
DATETIMESTAMP	数値	IEF タイムスタンプ値の日付部分を、IEF 日付値に変換します。
DAY	数値	IEF 日付値の日の部分を抽出します。
DAYOFWEEK	文字列	IEF 日付値から曜日を計算します。
DAYS	数値	IEF 日付値を、0000 年 12 月 31 日からの日数を表す正の整数に変換します。

ファンクション名	タイプ	説明
DAYSTIMESTAMP	数値	IEF タイムスタンプ値を、0000 年 12 月 31 日からの日数を表す正の整数に変換します。
DAYTIMESTAMP	数値	IEF タイムスタンプ値の日の部分を抽出します。
FIND	数値	指定されたテキストまたは全半角文字列内の部分文字列の位置を返します。部分文字列が文字列内に含まれていない場合、0 が返されます。
FINDDBCS	数値	指定された全角文字列内の部分文字列の位置を返します。部分文字列が文字列内に含まれていない場合、0 が返されます。
HOUR	数値	IEF 時刻値の時間の部分を抽出します。
HOURLTIMESTAMP	数値	IEF タイムスタンプ値の時間の部分を抽出します。
JULDATE	数値	有効 IEF 日付値を、有効な整数のユリウス日 (YYYYDDD) に変換します。
LENGTH	数値	テキストまたは全半角文字列の長さを返します。
LENGTHDBCS	数値	全角文字列の長さを返します。
MICROSECOND	数値	IEF タイムスタンプ値のマイクロ秒の部分を抽出します。
MINUTE	数値	IEF 時刻値の分の部分を抽出します。
MINUTETIMESTAMP	数値	IEF タイムスタンプ値の分の部分を抽出します。
MONTH	数値	IEF 日付値の月の部分を抽出します。
MONTHTIMESTAMP	数値	IEF タイムスタンプ値の月の部分を抽出します。
NUMCYY	数値	4.0 より前の CYYMMDD 日付形式の数値を、YYYYMMDD 形式の数値に変換します。
NUMDATE	数値	IEF 日付値を、YYYYMMDD の数値形式の日付である整数に変換します。
NUMTEXT	数値	数値を表す文字列を、数値に変換します。
NUMTIME	数値	IEF 時刻値を、HHMMSS 数値形式の時刻である整数に変換します。
SECOND	数値	IEF 時刻値の秒の部分を抽出します。
SECONDTIMESTAMP	数値	IEF タイムスタンプ値の秒の部分を抽出します。

ファンクション名	タイプ	説明
SUBSTR	文字列	指定された位置から始まる、指定された長さの文字列の部分文字列を抽出します。
SUBSTRMIXED	文字列	指定された位置から始まる、指定された長さのテキスト文字列または全半角文字列の部分文字列を抽出します。
SUBSTRDBCS	文字列	指定された位置から始まる、指定された長さの全角文字列の部分文字列を抽出します。
TEXTNUM	文字列	数値を、数値を表す文字列に変換します。
TIMENUM	数値	数値を、IEF 時刻値に変換します。入力形式は、HHMMSS です。
TIMESTAMP	数値	有効な文字列タイムスタンプを、IEF タイムスタンプ値に変換します。入力形式は、YYYY-MM-DD-HH.MM.SS.NNNNNN、YYYY-MM-DD-HH.MM.SS および YYYY-MM-DD です。
TIMETEXT	数値	有効な文字列時刻を時刻値に変換します。
TIMETIMESTAMP	数値	IEF タイムスタンプ値の時刻の部分、IEF 時刻値に変換します。
TRIM	文字列	後続ブランクを文字列から削除します。
TRIMMIXED	文字列	後続ブランクを全半角文字列から削除します。
TRIMDBCS	文字列	後続ブランクを全角文字列から削除します。
UPPER	文字列	入力文字列の大文字文字列を返します。
UPPERMIXED	文字列	全半角入力文字列の大文字文字列を返します。
UPPERDBCS	文字列	全角入力文字列の大文字文字列を返します。
ビルド/検証 (VERIFY)	数値	妥当性評価文字列内にはない入力文字列内のテキストまたは全半角文字の位置を引き出します。
VERIFYDBCS	数値	妥当性評価文字列内にはない入力文字列内の全角文字の位置を引き出します。
YEAR	数値	IEF 日付値の年の部分を抽出します。
YEARTIMESTAMP	数値	IEF タイムスタンプ値の年の部分を抽出します。

第 12 章: ドキュメントの変更点

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[マニュアル選択メニュー](#) (P. 89)

[新たに提供されるマニュアル](#) (P. 89)

[既存ガイドへの変更](#) (P. 90)

[削除されたガイド](#) (P. 90)

マニュアル選択メニュー

CA サポート サイトのマニュアル選択メニューは、新しい形式の [CA Gen Wiki](#) で使用可能です。CA Gen Wiki では、ページにコメントして、すぐに応答を受け取ることができます。次のリリースまでドキュメントの修正を待つ必要はありません。ePub および PDF 形式でも公開されます。したがって、オフラインでも使用可能です。モバイルデバイスを使用してアクセスできます。

新たに提供されるマニュアル

以下のガイドおよびヘルプ システムが、CA Gen リリース 8.5 マニュアル セットに追加されました。

- 「Web サービスを作成して CA API Gateway に公開する方法」シナリオ
- 記事 *User-Added Functions in Action*
- シナリオ: 外部 Web サービスを呼び出す方法
- シナリオ: ODBC/JDBC/ADO.NET のインライン コードを追加する方法
- DB2 z/OS Table Partitioning Plug-in Help
- DB2 z/OS Tablespace Partitioning Plug-in Help

既存ガイドへの変更

以下のガイドは更新されました。

- *CA Action Diagram User Guide*
- *CA Gen ベスト プラクティス ガイド*
- *CA Gen メッセージ リファレンス ガイド*
- *User Exit Reference Guide*

CA Gen リリース 8.5 NonStop インプリメンテーション ツールセット製品は利用できません。ただし、この製品への参照は各種ガイドから削除されませんでした。

削除されたガイド

「*Database Schema Import Facility User Guide*」は、CA Gen リリース 8.5 マニュアルセットから削除されました。

第 13 章：既知の問題

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[ビルド ツール](#) (P. 92)

[Client Server Encyclopedia](#) (P. 92)

[DB2 z/OS テーブルスペース区分プラグイン](#) (P. 93)

[マニュアル](#) (P. 93)

[\[Enterprise JavaBeans \(エンタープライズ ID\) \]](#) (P. 93)

[Enterprise JavaBeans Web Services](#) (P. 93)

[Gen Studio](#) (P. 94)

[Linux IT インストール](#) (P. 94)

[プロキシ生成](#) (P. 95)

[ランタイム アプリケーション](#) (P. 95)

[ランタイム ASP.NET](#) (P. 95)

[配布ランタイム](#) (P. 95)

[ランタイム GUI](#) (P. 96)

[SuSE SLES 11 のインストール](#) (P. 96)

[トランザクション イネーブラ/ユーザ ファンネル](#) (P. 96)

[ツールセット](#) (P. 97)

[UNIX インストーラ](#) (P. 97)

[Web View](#) (P. 98)

[Web Service Access Designer](#) (P. 98)

[Windows インストーラ](#) (P. 99)

[z/OS](#) (P. 99)

ビルド ツール

このリリースではビルド ツールで以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

- ビルド ツール クライアントを使用して **UNIX** ビルド ツール サーバでビルドを開始すると、ビルドがスケジュールされているというステータスで、ビルドプロセスがハングアップする場合があります。この問題は、ビルド プロファイルがデフォルトから他のいずれかのプロファイルに変更された場合に発生する可能性があります。
- リモート サーバに接続する場合、初期のリモート パスは空白になっています。パス入力フィールドに新しいパスを入力した場合は、**Tab** キーまたは **Enter** キーのいずれかを押してからファイル転送の実行を試みます。
- コマンドライン上で **CLEAN** コマンドを正常に使用すると、**STATUS** コマンドは現在のステータス（本来「**NEW**」になるべき）を正確に反映しません。
- リモート **Windows** ビルド ツール サーバに対してアセンブリは有効にされません。
- ビルド ツール ヘルプでは、トピックの名前が部分的に検索結果に表示される場合があります。検索結果リスト内のトピック リンクをクリックすると、トピックが表示されます。

Client Server Encyclopedia

このリリースではクライアント サーバエンサイクロペディアで以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

- サーバ プロシージャ ステップに 1 つの大きなカージナリティ（つまり 999）グループ ビューおよび複数のビューが含まれる場合、**MVS/Cobol/DB2/CICS** をターゲットにする生成の特定のインスタンスでは、**AIX** のリモート ファイル ジェネレータが失敗します。回避策として、生成をツールセットまたはホストエンサイクロペディアから実行することができます。

DB2 z/OS テーブルスペース区分プラグイン

このリリースでは DB2 z/OS テーブルスペース プラグインで以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

ルート サブジェクトエリアがサブセットのアクセスの変更で使用できない場合、プラグインを使用して DB2 z/OS テーブルスペース区分を変更すると、保護違反エラーが発生します。DB2 z/OS テーブルスペース区分オブジェクトのプロテクションを確認する必要があります。ツールセットでの変更はオブジェクトプロテクションに基づいて阻止されます。

マニュアル

[Enterprise JavaBeans (エンタープライズ ID)]

このリリースでは Enterprise JavaBeans (EJB) で以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

インポート ビューまたはエクスポート ビューを含まないプロセス ステップは、Java サーバマネージャ、Java プロキシ、Web 生成ウィンドウ マネージャまたは Web ビュー ウィンドウ マネージャの生成が失敗する原因となる可能性があります。

Enterprise JavaBeans Web Services

このリリースでは Enterprise JavaBeans (EJB) Web サービスで以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

- Java スタンドアロン、JAVA XML、プロキシ NET または GUI アプリケーションが、https プロトコルによるアクセスに失敗します。
- クライアントが IPV6 アドレスで EJB Web サービス サーバと通信できません。
- WSDL に NLS 文字がある場合を除く Web サービスの失敗。

Gen Studio

Gen Studio は、米国のリハビリテーション法第 508 条にまだ完全準拠していません。機能によって、引き続きマウスの使用が必要な場合、ハイコントラストで適切に表示できない場合、またはスクリーンリーダーソフトウェアによる使用がサポートされていない場合があります。

このリリースでは Gen Studio で以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

- Dreamweaver からすべてのコントロール（ボタン、テキストフィールド、テキスト領域、テーブル、チェックボックス、ラジオボタン、リスト/メニュー、ファイルフィールド）を追加します。1 つにアクションを追加します。Gen Studio で、コンソールビューに例外が表示されます。コントロールがそれぞれ別個の html ファイルに追加された場合、例外は発生しません。
- Dreamweaver で定義されたテーブルに、Web Service Access Designer でマップされた非反復グループビューが取り込まれません。
- ライセンスエラーが表示される場合は常に、エラーメッセージは Gen Studio ではなくツールセット製品を指しています。

Linux IT インストール

このリリースでは Linux IT インストールで以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

文字化けした文字がインストール画面の枠に沿って表示されます。

RedHat または SuSE（PuTTY で VT100 モードを使用）のいずれかで IT インストールを実行する場合、文字化けした文字が、テキストを囲む長方形のボックスを構成する線ではなくインストール画面の枠に沿って表示されます。回避策として、[PuTTY Configuration] ウィンドウの左側にある [Translation] ウィンドウタブをクリックします。[Remote Character Set] で [UTF-8] を選択し、セッションを起動します。

プロキシ生成

このリリースではプロキシ生成で以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

- リモートデーモンをターゲットにする場合、ユーザファンネルがウィンドウでクラッシュします。

ランタイム アプリケーション

このリリースではランタイム アプリケーションで以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

Visual Studio 2012 コンパイラを使用してモデルを構築し、**Aero** のようなテーマ、または埋め込み境界もしくは太い境界が含まれる他のテーマを選択した場合、ダイアログ ボックスのサイズは減少します。

ランタイム ASP.NET

このリリースではランタイム **ASP.NET** で以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

CA Gen .NET ランタイムで、小数精度算術を実行するときに、オーバーフローおよびアンダーフローが正しく処理されません。

配布ランタイム

このリリースでは配布ランタイムで以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

Tuxedo

Tuxedo TP モニタの使用時に、エラーが発生して、**commit/abort** ロジックが処理を完了できない場合、サーバ間フローが原因で 2 番目のサーバがシャットダウンすることがあります。また **Tuxedo TP** モニタによって、サーバ間フローが **1 Mb** ビューのパス時に失敗します。

ランタイム GUI

このリリースではランタイム GUI で以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

- キープレスイベントが矢印キーおよびファンクションキーで起動します。

SUSE SLES 11 のインストール

このリリースでは SUSE SLES 11 で以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

- ライブラリの欠落

CA Gen インストーラには、SUSE SLES 11 製品に同梱されなくなった *compat* ライブラリが必要です。 *compat* パッケージは以下のディレクトリからダウンロードできます。

<http://linux.mirrors.es.net/opensuse/factory/repo/oss/suse/i586>

compat-.i586.rpm* の現在のバージョンを選択します。ダウンロードしてインストールします。

- エンドユーザライセンス契約が表示されない

一部の X サーバで、CA エンドユーザライセンス契約が記載されたテキストのスクロールウィンドウを表示する際に問題が生じます。テキストは、別のウィンドウをテキストにかぶせたり、元に戻したりすることによって読み取れるようになります。または、設定コマンドの引き数に「-V」（大文字の V）を追加することにより、VT100 モードでインストールを再起動することもできます。

トランザクション イネーブラ/ユーザ ファンネル

このリリースではトランザクション イネーブラ/ユーザ ファンネルで以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

Windows ユーザ ファンネルが、UNIX トランザクション イネーブラへの接続時に開始されません。

ツールセット

このリリースではツールセットで以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

- **CALL EXTERNAL** ステートメントが含まれるアクション図のコピー機能は、すべてのオブジェクトを正しく追加するとは限りません。
- **BLOB** 属性をリスト ボックスの項目として選択可能にしてはなりません。一貫性検査レポートによって、ウィンドウに配置された **BLOB** 属性が可視化されます。
- **CALL EXTERNAL** ステートメントは別のアクション図にコピーできません。また、既知の問題が解決されるまで、**CALL EXTERNAL** ステートメントが含まれるアクション図をコピーしないでください。
- ビューの長さが許容限度内であることが一貫性検査で示されても、コード生成は大きなビューのために失敗します。
- **CALL EXTERNAL** または **INLINE CODE** ステートメントに関連付けられたエラー メッセージ ダイアログ ボックスはモードレスとなります。エラー メッセージ ダイアログ ボックスがアクティブである場合に、ツールセットの他の部分と対話すると、ツールセットが応答しなかったりクラッシュしたりする場合があります。

UNIX インストーラ

このリリースでは **UNIX** インストーラで以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

- エンドユーザ使用条件 (EULA) の最後に、EULA の同意または拒否のためにプッシュボタンを使用することが明言されていません。「同意してインストールプロセスを続行するには [ライセンス契約書に同意する] プッシュボタンを選択、またはインストールプロセスを中止するには [取消] プッシュボタンを選択してください」とテキストに示す必要があります。ラジオ ボタンがありません。
- **UNIX** インストールが以下のエラーで失敗します。

“++ Component {component name} installed with error: 224”

インストールの完了に必要なディスク空き領域がありません。このエラーは **CA Gen** のインストールに使用されるインストール ツールによって発生します。必要なディスク領域を解放して再インストールしてください。

- UNIX インストールの [変更]、[再インストール] (Reinstall) および [アンインストール] (Uninstall) のオプションが機能しません。

製品をアンインストールするには、コマンド「`ism -e`」を使用します。CSE および IT を同時にインストールするとエラーが発生します。エラーは、`/opt/CA/installer/log` ディレクトリのログ ファイルにあります。CSE および IT のインストールを別々に実行するとインストールは成功します。

Web View

このリリースでは **Web View** で以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

- ビルドツールの [EAR ファイルアセンブルの詳細] ダイアログ ボックスで、デフォルトのセッションタイムアウト値を変更するオプションが提供されません。

アセンブルされた ear ファイルで `web.xml` を変更してください。

- 垂直方向のメニュー バーがウィンドウの全高まで拡張されています。
- ウィンドウのサイズを変更すると、垂直および水平のスクロール バーが表示されません。

Web Service Access Designer

このリリースでは **Web Service Access Designer** で以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

- エクスポートの日付ビュー、時刻ビュー、またはタイムスタンプビューを同等の「空の」ローカル ビューに設定しても、エクスポートビューがクリアされません。
- データが、公開済みの WSDL により外部サイトを使用して、**Web Service Access** に返されません。

ブラウザはセキュリティ制限を増やしており、ほとんどのブラウザでクロス サイト スクリプティングができないようになっています。このため、**Web Service Access** はリモート Web サービスに直接アクセスできません。**Web Service Access** アプリケーションがアクセスする Web サービスは、同じドメイン内にある必要があります。

Windows インストーラ

このリリースでは Windows インストーラで以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

GEN85 環境変数に依存する CA Gen 機能を削除した後に、GEN85 に依存する他の機能がまったく実行できないか、または実行するとエラーが発生します。機能が削除されたために、GEN85 が未定義になっています。回避策として、インストーラを起動して修復オプションを実行してください。これにより、GEN85 の定義が復元されます。

CA Gen 8.5 がインストール済みで、Dreamweaver CS6 がインストールされていない場合、CA Gen Dreamweaver プラグインがインストールされません。回避策は、Dreamweaver CS6 のインストール後に CA Gen 8.5 をアンインストールおよび再インストールすることです。

プロキシ製品機能をアンインストールしても、プロキシ モジュールの生成およびインストール機能は無効になりません。

z/OS

このリリースでは z/OS で以下の既知の問題の存在が明らかになっています。

- CICS 協調サーバ間異常終了

Gen 8.5 を使用して生成およびインストールされた CICS サーバ間のトランザクションが、TIRMOVP の SOC4 で異常終了します。

Gen 8.0 以前のリリースを使用して生成およびインストールされた CICS サーバ間のトランザクションでは、異常終了は発生しません。

- CommID 不一致

z/OS IMS サーバで協調クライアントを実行して、特定のエラー状態が発生した場合、以下の誤ったエラー メッセージが表示されます。

TIRM626E: Error client/server send/rcv protocol not in sync.

さらに、CMIDEBUG ログには CommID 不一致があることが記録されます。

- コードページ

サーバランタイム TIRCRUNI または TIRCRUNC に正しいコードページ変換がリンクされていない場合、サーバは U3500 または IEFT のいずれかで異常終了します。これを、異常終了するのではなく、クライアントにエラーが発生するように変更する必要があります。考えられる回避策は、正しい変換モジュールがリンクされていることを確認することです。

- IMS 協調サーバ間異常終了

IMS サーバ間のトランザクションが TIRMOVP の SOC4 で異常終了します。

- DSNHLI の SOC4 による zLib 使用の IMS トランザクション異常終了

zLib アクションブロックを実行する IMS ブロック モード トランザクションが、DSNHLI の SOC4 で異常終了します。

- ホスト エンサイクロペディア

偶発的パネルエラー：ISPD113 無効パネル。回避策として、Enter キーを押してください。

- z/OS インプリメンテーション ツールセットを使用した zLib アプリケーションの構築

CA Gen ツールセットまたは CSE によって作成されたリモート ファイルを処理して、z/OS IT を使って zLib アプリケーションを構築する場合、CASCADE アクションブロックの techsys 名は空白です。また、分割手順が次のメッセージで失敗します：

ERROR – BUILD PROC – COMMON MEMBER’S BUSINESS SYSTEM NOT FOUND。 ホスト構築を使用した構築を回避するか、または手動でビジネス システム名を .rmt ファイルに追加します。

リモート ファイルを処理して z/OS IT を使って zLib アプリケーションを構築する場合、IP の実行手順は次のエラー メッセージを受け取ります：Link-edit Failed, RC=8 and an UNRESOLVED reference。

第 14 章：サードパーティソフトウェア使用 許諾契約

サードパーティ ソフトウェア使用許諾契約は、CA Gen マニュアル選択メニューの ¥Bookshelf_Files¥TPSA フォルダにあります。